

第2次 岡崎市食育推進計画

平成24年度～平成28年度

中間評価



©2006 岡崎市 まめ吉

平成27年3月
岡崎市食育推進会議



目次

はじめに

第1 第2次岡崎市食育推進計画について

- 1 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 計画の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第2 数値目標に対する達成状況と評価・課題

- 1 食と環境に関する指標・・・・・・・・・・ 4
- 2 食と農に関する指標・・・・・・・・・・ 5
- 3 食と健康に関する指標・・・・・・・・・・ 6
- 4 食とコミュニケーションに関する指標・・ 7
- 5 食文化に関する指標・・・・・・・・・・ 8
- 6 食の安全・安心に関する指標・・・・・・・・ 9
- 7 協働に関する指標・・・・・・・・・・ 10

第3 まとめ

- 1 目標達成率・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 2 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第4 アンケート調査結果

- 1 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 2 調査結果のみかた・・・・・・・・・・ 13
- 3 回答者の属性・・・・・・・・・・ 14
- 4 取組、関心について・・・・・・・・・・ 16
- 5 食生活について・・・・・・・・・・ 21
- 6 次世代への食育について・・・・・・・・・・ 32
- 7 食品の選択について・・・・・・・・・・ 36
- 8 食文化について・・・・・・・・・・ 40

はじめに

岡崎市では、市民の皆さんが命と健康の基本である「食」についての意識を高め、健やかで心豊かな生活が送れるよう、(第1次)岡崎市食育推進計画(平成20年度～平成23年度)及び第2次岡崎市食育推進計画(平成24年度～平成28年度)に基づき、食育の推進に取り組んでいます。

第2次岡崎市食育推進計画においては、「食育は自らを育む“ひとづくり”」を基本理念に掲げ、これを実現するため、目指すべき姿は、市民の皆さんが、自ら食育を「学び」「教え」「協力し」実践することとし、市民の皆さん一人ひとりの食育の実践を関係者が支援し、協働することで、より効果的な取組に繋げることを基本的な方針として、様々な取組を実施してきました。

平成26年度は、計画の中間年にあたることから、食育の目標として掲げている数値目標の達成状況を確認し、食育に関わるさまざまな関係者が取り組むべき課題などを整理しました。

今回の中間評価にあたっては、11,287名の皆さんにアンケート調査を御協力頂きました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

このアンケートで得られたデータは、今後の取組に活用し、目標達成のため努力して参ります。

また、市民の皆さんにおかれましても、データを解析し、目標数値を達成するために必要な取組について、御提案がございましたら、積極的にお寄せくださいますようお願いいたします。

平成27年3月

岡崎市食育推進会議会長

岡崎市長

内田 康宏

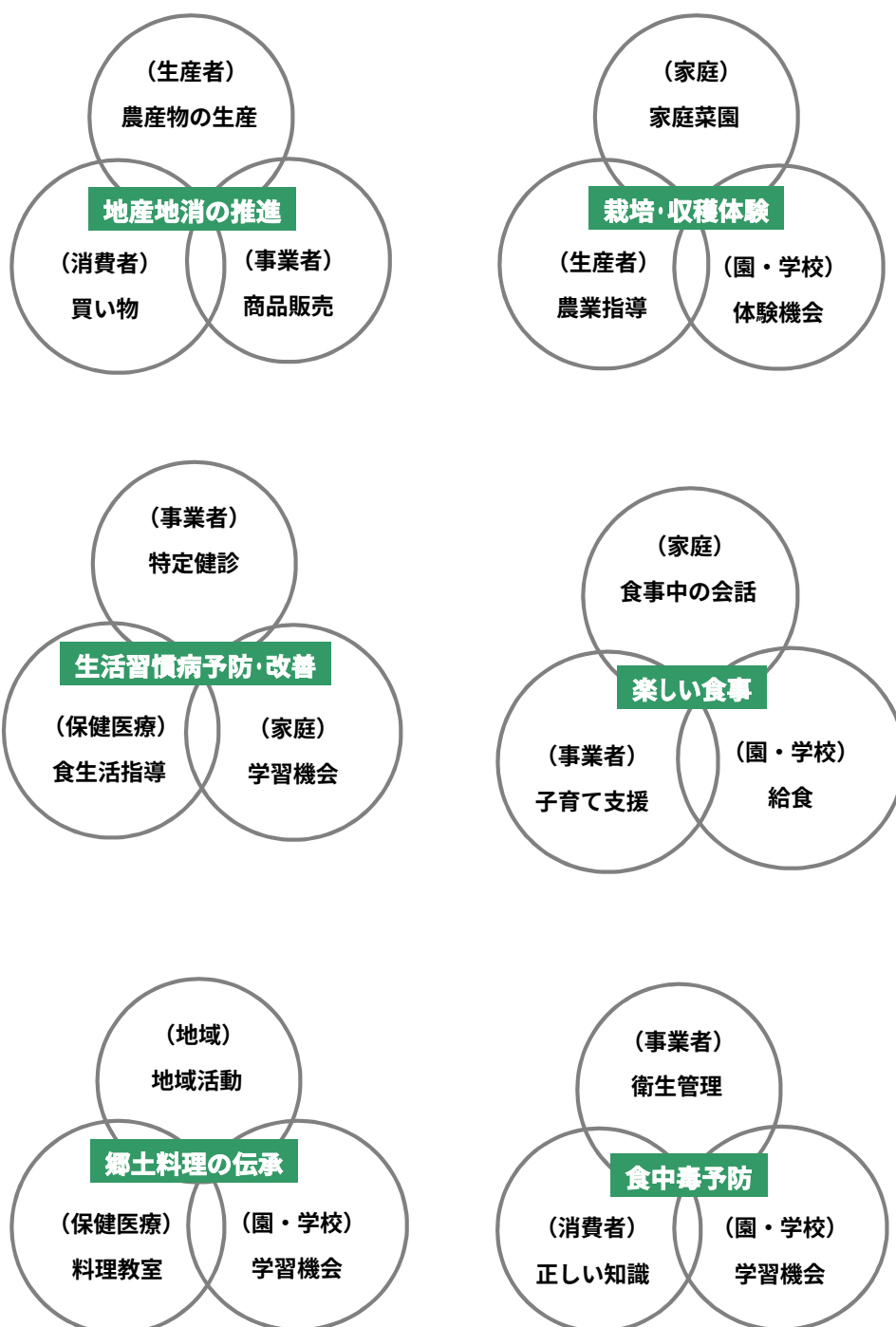
第1 第2次岡崎市食育推進計画について

1 基本方針

食育が目指しているのは、知識の集積ではなく行動と実践です。

市民一人ひとりの食育の実践を関係者が支援し、協働することで、より効果的な取組に繋がっていきます。

協働による実践のイメージ



2 計画の体系

食育の目指すべき姿の視点を共有するとともに、これまで個々に実施されていた食育に関する施策を体系化し、基本方針に基づく事業を推進します。

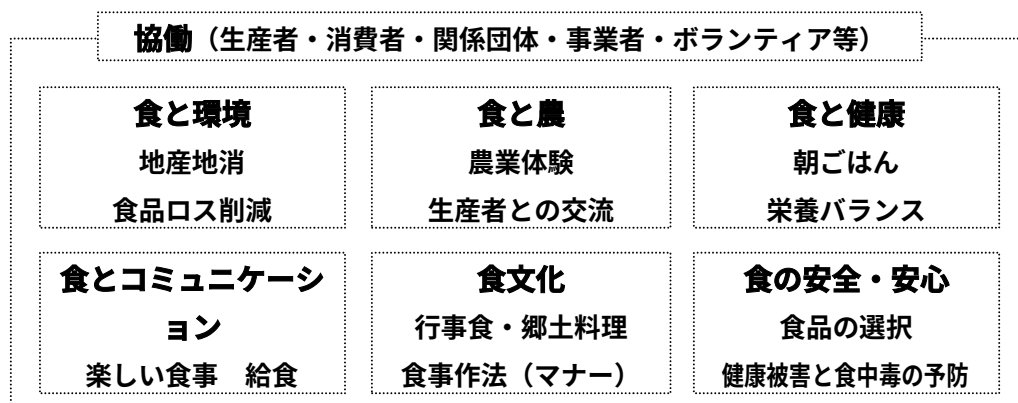
目指すべき姿

自ら食育を「学び」「教え」「協力し」実践する

基本方針

「協働により周知から実践へ」

施策の体系



第2 数値目標に対する達成状況と評価・課題

6つの施策の体系ごとに数値目標を掲げています。

数値目標の基準値（平成22年度）、現状値（平成26年度）、目標値（平成28年度）を比較した評価、これまで実施してきた取組、今後取り組むべき課題を整理しました。

なお、現状値については、主に平成26年10月～11月に実施したアンケート調査によって得られた数値です（P13～参照）。

評価は、**達成** 改善： 変化なし： 後退： で表しています。

1 食と環境に関する指標

目標事項		基準値 H22	現状値 H26	目標値 H28	評価
地元の農産物を意識して購入している人	岡崎市産	7.6%	6.0%	15%以上	
	愛知県産	11.5%	18.1%	20%以上	

評価

岡崎市産や愛知県産の農産物に対してのこだわりを高め、地産地消を推進するための指標です。

愛知県産を意識して購入している人は順調に伸びていますが、一方で、岡崎市産は愛知県産指向ヘシフトしている形で、後退しています。「国内産であればよい」が最も高く（P38参照）、「地産地消」を実践しようという意識は高くないといえます。

取組

- ・地産地消の推進（環境総務課・農務課・事務局）
- ・地元農産物のPR（農務課・JAあいち三河）
- ・環境保全型農業の振興支援（農務課）
- ・学校給食における地場産物の活用（給食管理室）
- ・おかざき地産地消セレクション・おかざきファーマーズマーケット（商工会議所）
- ・菜の花プロジェクトの実施（JAあいち三河）

課題

身近な食べ物の消費や利用を進めることは、食料自給率の向上に寄与するばかりでなく、遠くから運ばれてくる食べ物を使うよりも輸送にかかるエネルギーの節約にもなります。

新鮮で、安全、安心な野菜を消費者が利用できるよう、安全な地場野菜の生産を奨励し、特に**岡崎市産の野菜のPRを積極的に行い**、産直施設を充実させるとともに、保育園、幼稚園、学校の給食や職場、地域が連携して地産地消の推進に取り組むことが必要です。

比較データ

県産農水産物を優先して購入したいと思う県民の割合：14.6%（愛知県 H25）

2 食と農に関する指標

目標事項		基準値 H22	現状値 H26	目標値 H28	評価
家庭菜園の手伝いをしている児童	小学2年生	31.6%	24.5%	40%以上	
	小学5年生	31.9%	21.8%	40%以上	

評価

家庭において、食に対する感謝の気持ちを育み、食べ物の旬や素材本来の味を知ingことを目的としている指標です。

小学2年生及び5年生ともに値は後退しており、家庭菜園がないという家庭は、約半数にのぼりました（P35 参照）。

取組

- ・家庭菜園等の支援（農務課・事務局）
- ・市民農園等の農業体験機会の充実（農務課）
- ・産直施設の活用（農務課）
- ・遊休農地の再生利用〔農業振興・農業体験〕（農務課）
- ・保育園、幼稚園における食育の推進〔栽培・収穫体験〕（保育課）
- ・食に関する指導〔栽培・収穫体験〕（学校指導課）
- ・栽培、収穫、調理体験及び街頭キャンペーン（JAあいち三河、各種団体・企業）
- ・食育カレンダーに市内農産物の旬を掲載（事務局）

課題

子どもの頃から、農業体験や家庭菜園などで野菜作りや地元の野菜を使った料理に親しむ教育を行い、食べ物の旬や素材本来の味について知ingことは、とても大切です。一過性の体験だけではなく、一つの農産物について、栽培、収穫、料理までといった、継続的な体験ができる取組が求められます。

また、**庭のない家庭でもプランターで簡単に野菜作りができるよう技術的支援とともに動機付けする機会の増加が望まれます。**

3 食と健康に関する指標

目標事項		基準値 H22	現状値 H26	目標値 H28	評価
朝食を食べないことがある 園児・児童・生徒	園児（4歳児）	4.7%	4.2%	2%以下	
	小学2年生	7.6%	4.6%	2%以下	
	小学5年生	5.6%	6.5%	2%以下	
	中学2年生	11.5%	12.9%	5%以下	
	高校2年生	22.2%	18.1%	10%以下	
朝食に野菜を食べている人の割合		58.6%	60%	70%以上	

評価

食を通じて健康な体をつくるための指標です。

朝食を食べないことがある児童・生徒は、小学2年生、高校2年生、園児（4歳児）で減少しており、改善の傾向が見られます。就寝時間との相関がみられた（P25 参照）一方で、「早寝早起き朝ごはん」運動（P17 参照）の認知度が低下しています。

取組

- ・栄養健康教育（健康増進課）
- ・健康おかざき 21 計画の推進（健康増進課）
- ・特定給食施設指導（健康増進課）
- ・外食栄養成分表示店定着促進（健康増進課）
- ・早寝・早起き・朝ごはんの推進（学校指導課、保育課）
- ・特定健康診査（国保年金課）
- ・生活習慣病予防の栄養指導、講話（国保年金課）
- ・栄養食事指導（市民病院栄養管理室）
- ・介護予防事業〔栄養改善〕（長寿課）
- ・講座、イベント等の開催・参加（各種団体・企業）

課題

朝食の欠食については、顕著な改善がみられませんが、子どもの頃から食生活を始めたとした規則正しい生活習慣を確立していくことはとても重要です。

単独世帯の増加や、生活スタイルの夜型化などを背景に私たちの食生活が大きく変化し、朝食の欠食や間食、夜食など食生活のリズムに乱れがみられます。

家族との食事や、給食を通して、子どもたちが楽しく食べ、食の大切さを学ぶことができるように学校と家庭の連携による取組を進め、「早寝早起き朝ごはん」の習慣づけをより一層強化する必要があります。

4 食とコミュニケーションに関する指標

目標事項		基準値 H22	現状値 H26	目標値 H28	評価
食事の時間が楽しいと 感じている児童・生徒	小学5年生	87.2%	92.6%	90%以上	達成
	中学2年生	74.3%	84.7%	80%以上	達成

評価

食を通じたコミュニケーションを図るための指標です。

小学5年生、中学2年生共に目標値を達成しています。

食事の楽しさには、家族そろって食事をすることが大きく関係しています（P27 参照）。

取組

- ・男女共同参画の推進（文化活動推進課）
- ・生涯学習事業（料理教室）（文化活動推進課）
- ・給食における食育の推進（保育課・給食管理室・学校指導課）
- ・栄養教諭、学校栄養職員による食育指導（給食管理室）
- ・学校給食メニューコンクール（給食管理室・事務局）
- ・食育ポスターコンクール（事務局）
- ・おかざき食育だより（事務局）
- ・料理教室の開催、施設見学、食育体験（各種団体・企業等）

課題

ライフスタイルの変化や食の外部化などにより、一人で食事をする「孤食」が問題となっています。食事は単に空腹を満たすだけではありません。日々当たり前に食事ができることに感謝し、家族や親しい友人と楽しく会話をしながら食卓を囲めば、心と体を満たすことができます。社会環境の変化により価値観が多様化する中、**食を通じたコミュニケーションを図ることができるよう、ライフスタイルや年代に応じた情報提供や取組を推進する必要があります。**

5 食文化に関する指標

目標事項	基準値 H22	現状値 H26	目標値 H28	評価
行事食・郷土料理の体験学習をしている園	値なし	78 園	35 園以上	達成

評価

地域において継承されてきた特色ある行事食や郷土料理（菓子を含む）などの食文化への意識を高めるための指標です。

公立保育園全 35 園、公立幼稚園全 3 園、私立保育園全 18 園、私立幼稚園全 22 園、合計 78 園で実施されています。

取組

- ・ 保育園、幼稚園における食育の推進（保育課）
- ・ 行事食や郷土料理（菓子づくり）教室（各種団体・企業）

課題

すでに目標値は達成されていますが、その取組内容は園によりさまざまです。

アンケート調査結果から、岡崎の郷土料理や菓子（煮味噌やいがまんじゅうなど）の認知度や食べたことがある人が少ない現状であったことから（P41 参照）、**保育園、幼稚園、学校、家庭、地域が連携して岡崎の郷土料理の認識を高めるための取組が必要です。**

具体的には、岡崎市内における行事食や郷土料理について、現場における調査を実施し、伝承されるべき知識として整理した上で、市民のみなさんに情報提供し、食文化を学び触れる機会を増やしていきます。

6 食の安全・安心に関する指標

目標事項	基準値 H22	現状値 H26	目標値 H28	評価
食品を購入するときに表示を参考にする人	67.3%	64.9%	80%以上	

評価

食品の表示やリスクを正しく理解し、自らの判断で適切に食品を選択し安心して食生活を送るための指標です。

食品を購入するときに表示を参考にする人の割合は増加していません（P37 参照）。

取組

- ・消費生活相談、活動支援（安全安心課）
- ・食品の安全性に関する情報提供及び意見交換〔リスクコミュニケーション〕（生活衛生課）
- ・食品衛生に関する講習会（生活衛生課）
- ・食品衛生月間業務（生活衛生課、岡崎市食品衛生協会）
- ・表示に関する情報提供、わかりやすい表示（生活衛生課、岡崎市食品衛生協会、各種団体・企業）

課題

食品中の放射性物質、食品添加物、残留農薬やBSE、食品の偽装表示事件など、市民の食に対する不安は依然として高いままです。食品事業者の衛生意識の欠如や、誤った情報による健康被害をなくすため、関係部局と連携して講習会等を実施し衛生知識の普及啓発について、さらなる取組が必要です。

また、乳幼児に多く見られる食物アレルギーへの正しい理解を図り、食事制限がある人も楽しく食事をする事ができるよう、飲食店等におけるアレルギー物質の使用についての情報提供を促進します。

食品の表示やリスクを正しく理解し、自らの判断で適切に食品を選択し安心して食生活を送ることができるよう、正確な情報をわかりやすく提供するとともに、市民・食品事業者・行政相互のリスクコミュニケーションのより一層の充実を図る必要があります。

7 協働に関する指標

目標事項	基準値 H22	現状値 H26	目標値 H28	評価
ボランティア等と連携した食育講座の実施回数（年間）	値なし	27 回	40 回以上	

評価

市民一人ひとりの食育の実践を関係者が支援し、協働することで、より効果的な取組に繋げるための指標です。

岡崎市食育推進ボランティア登録制度によりボランティアを把握し、ボランティア研修会を実施し、市が行う食育講座やキャンペーン等の行事で連携しました。

実施回数は目標値に対し、順調に推移しています。

取組

- ・市民協働の推進（市民協働推進課）
- ・市民活動団体の支援（文化活動推進課）
- ・食生活改善推進員の養成及び活動支援（健康増進課）
- ・食育推進ボランティアとの連携体制の整備（事務局）
- ・食育に関する市民協働事業（事務局）
- ・岡崎市食育推進ボランティアの育成と活動支援（事務局）

課題

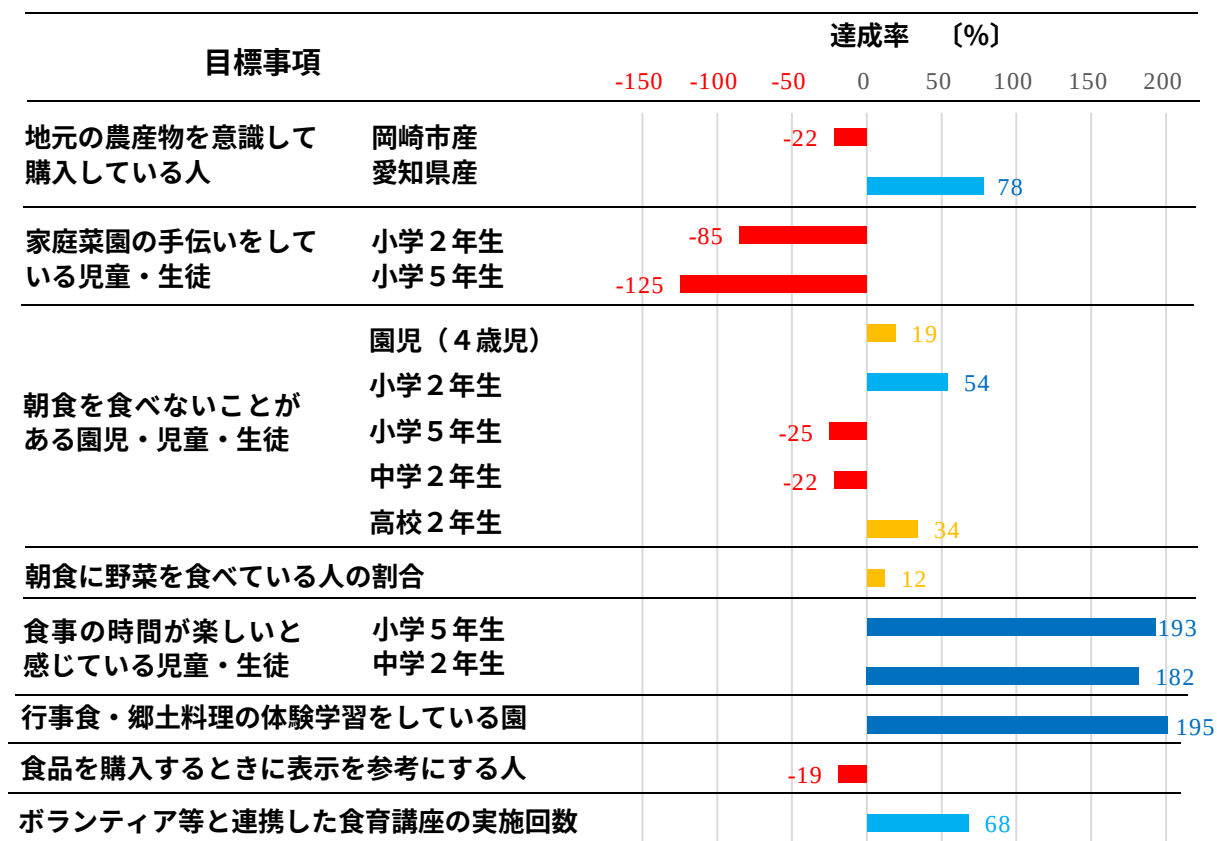
市民一人ひとりが食に関心を持ち、健全な食生活を日々実践していくためには、**家庭、学校、地域、企業、行政がより一層相互に連携し、一体となって取り組むための仕組みづくり（活動の支援・周知等）の充実を図る必要があります。**

食育を地域に根ざした活動としてより効果的に推進するため、その取組を支援する人材の育成と活動の充実をさらに図り、その活動を周知し、より多くの市民が食育ボランティアから食育を学ぶ機会が増加するための仕組みの充実を図ります。

第3 まとめ

1 目標達成率

基準値（H22）の数値から目標値（H28）の数値に対して、何%改善（後退）したかをグラフ化しました。



・15の目標事項のうち、

- 3つが達成率 100%～【目標達成】
- 3つが達成率 51%～80%【順調】
- 3つが達成率 0%～50%
- 6つが後退

2 考察

- ・愛知県産の農産物を意識して購入している人は順調に増えていますが、岡崎市産を意識して購入している人は伸びていません。

→岡崎市産農産物のさらなるPRが必要です。

- ・家庭菜園の手伝いをする小学生は減少しており、家庭菜園がない家庭が半数以上を占めています。

→庭のない家庭でもプランターで簡単に野菜作りができるよう支援が必要です。

- ・朝食を食べないことがある児童・生徒は、小学2年生、高校2年生、園児（4歳児）で減少しており、改善の傾向が見られます。就寝時間との相関がみられた一方で、「早寝早起き朝ごはん」運動の認知度が低下しています。

→「早寝早起き朝ごはん」の習慣づけをより一層強化する必要があります。

- ・1日あたりの野菜摂取量は228.5gであり、やや増加したものの、国（健康日本21）の目標である350gと比較して大きく不足しています。しかし、朝食に野菜を食べている人の割合はやや増加しました。

→日頃から意識して野菜を摂取するよう動機づけと、簡単な調理レシピ等の情報提供を強化する必要があります。

- ・食事の時間が楽しいと感じている児童・生徒は大きく増加しました。

→要因は不明ですが、家族と一緒に食事することが大きく関係するため、食を通じたコミュニケーションのための情報提供を引き続き行う必要があります。

- ・行事食・郷土料理の体験学習をしている園は私立保育園・幼稚園を含め、全園達成しました。

→保育園、幼稚園の他、地域全体で岡崎において伝承されてきた行事食・郷土料理の認識を高める取組の充実に努める必要があります。

- ・食品を購入するときに表示を参考にする人の割合が低下しました。

→食品の表示やリスクを正しく簡単に理解できる情報提供の充実を図る必要があります。

- ・ボランティア等と連携した食育講座の実施回数は、順調に伸びています。

→家庭、学校、地域、企業、行政が、より一層相互に連携し、一体となって取り組むための仕組みづくり（活動の支援・周知等）の充実を図る必要があります。

第4 アンケート調査結果

第2次岡崎市食育推進計画の中間評価として実施した平成26年度の結果を始め、平成19年度、平成21年度、平成22年度の結果も合せてまとめました。

1 調査の概要

(1) 調査時期

平成26年10月～11月

(2) 調査対象者等

区分	調査方法	配布数	回収数	回収率 (%)
一般	・ 20 歳以上の方に対し、無作為に直接配布し、郵送又は直接回収 ・ e モニターにより回答	1,767	882	49.9
保護者	・ 各園、学校で配布し、回収	7,841	7,174	91.5
高校 2 年生	市立保育園、幼稚園：全園 私立保育園、幼稚園：希望園 小学 2 年生・ 5 年生、中学 2 年生：選抜校 高校 2 年生：希望校 園児(4 歳)及び小学 2 年生本人のことは保護者が回答	1,940	1,696	87.4
中学 2 年生		719	614	85.4
小学 5 年生		929	921	99.1
小学 2 年生		974	937	96.2
園児(4 歳)		3,279	3,045	92.9
合計		17,449	15,269	87.5

回答者：11,287人

2 調査結果のみかた

- (1) Nは質問に対する回答者数（人）を示します。
- (2) 集計結果はすべて、小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならないことがあります。
- (3) 複数回答の設問の場合、集計結果の合計が100%又は回答数を超えることがあり、回答数の合計を回答者数（N）で割った比率をMT（%）で示します。
- (4) 本文中の質問の選択肢について、長い文は簡略化しているところがあります。

3 回答者の属性

(1) 性別

単数回答

N：一般 882 人 保護者 7,174 人 高校2年生 1,696 人 中学2年生 614 人
小学5年生 921 人 小学2年生 937 人 園児 3,045 人

区分	男性	女性	不明・無回答
一般	35.4%	62.9%	1.7%
保護者	5.6%	93.7%	0.7%
高校2年生	51.2%	48.1%	0.6%
中学2年生	49.5%	50.2%	0.3%
小学5年生	47.6%	51.8%	0.7%
小学2年生	49.0%	46.7%	4.3%
園児（4歳）	52.9%	45.3%	1.9%

(2) 年代

単数回答

N：一般 882 人 保護者 7,174 人

区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	不明・無回答
一般	2.3%	19.5%	21.8%	14.1%	24.7%	16.6%	1.1%
保護者	5.7%	44.2%	44.3%	4.8%	0.4%	0.1%	0.6%

(3) 家族構成

単数回答

N：一般 882 人 保護者 7,174 人

区分	三世代世帯	親と子 (二世代世帯)	夫婦のみ	一人暮らし	その他	不明・無回答
一般	16.3%	52.2%	22.8%	5.8%	1.5%	1.5%
保護者	18.4%	76.5%	0%	0%	3.1%	2.0%

(4) 職業

単数回答

N：一般 882 人 保護者 7,174 人

区分	農林業	自営業 (農林業以外)	自由業	会社員・公務員	パート・ アルバイト
一般	2.2%	3.3%	1.0%	16.5%	15.8%
保護者	0.1%	5.8%	0.6%	21.5%	41.1%

区分	家事専業	学生	無職	その他	不明・無回答
一般	16.9%	0.8%	14.3%	1.5%	1.4%
保護者	25.0%	0.1%	2.5%	2.4%	1.0%

(5) 居住年数

単数回答

N：一般 882 人 保護者 7,174 人

区分	5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 20 年未満	20 年以上	岡崎市に住ん でいない	不明・ 無回答
一般	4.5%	10.5%	11.3%	66.1%	6.8%	0.7%
保護者	8.3%	17.5%	20.4%	43.4%	9.7%	0.6%

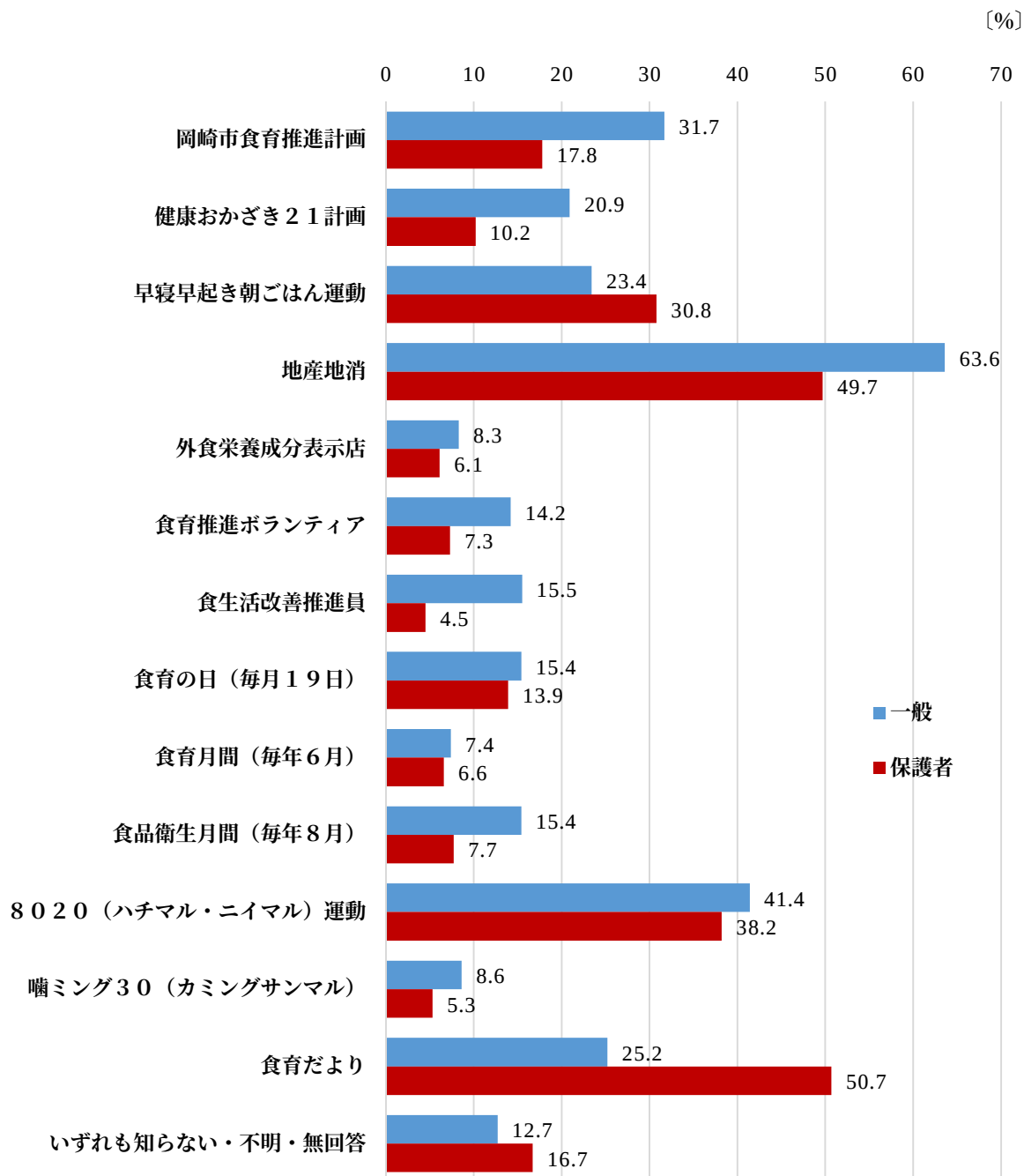
4 取組、関心について

(1) 行政の取組の認知度

■ 国や市で行っている取組を知っていますか。

複数回答

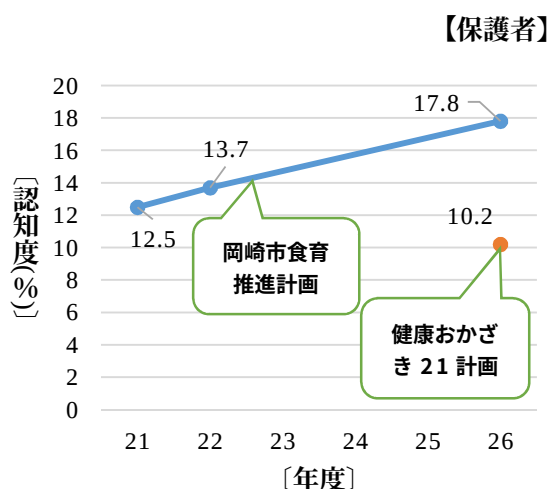
N:一般 882 人 保護者 7,174 人 MT:一般 290.9% 保護者 248.8%



一般、保護者ともに「地産地消」が最も高くなっています。今回の調査から選択肢として加えた「8020運動」がそれに次いでいます。

「食育だより」は、市内小中学校全児童・生徒及び平成 26 年度からは市内保育園幼稚園全年長児を対象に配付しているため、保護者で高くなっています。

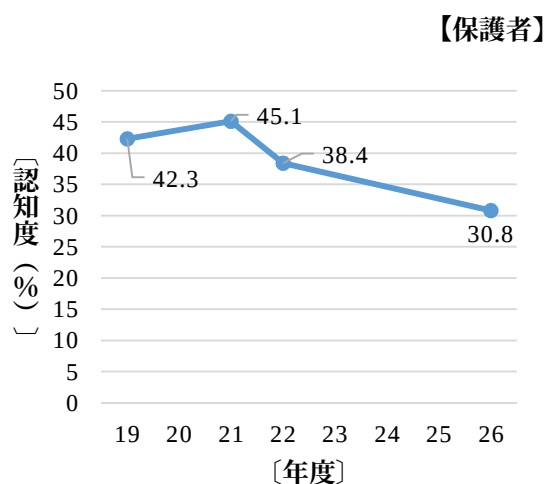
■ 岡崎市食育推進計画・健康おかざき 21 計画 認知度（推移）



平成 17 年の食育基本法施行に伴い、平成 20 年 3 月に（第 1 次）岡崎市食育推進計画を策定しました。その後、徐々に認知度が上昇しています。

また、「健康おかざき 21 計画」においては、【分野 2】栄養・食生活が密接に関連することから、合せて市民の認知度向上を図ります。

■ 早寝早起き朝ごはん運動 認知度（推移）

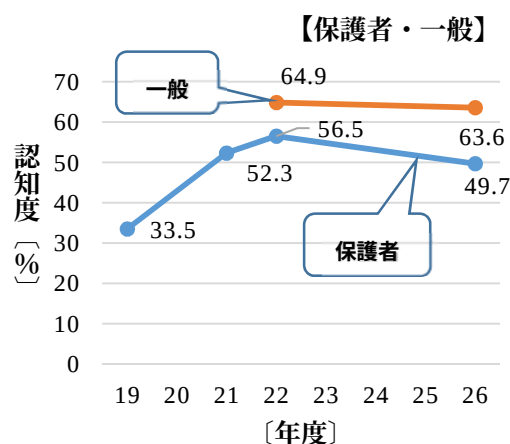


認知度が低下しています。

子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。

家庭における食事や睡眠などの乱れは、個々の家庭や子どもの問題として見過ごすことなく、社会全体の問題として地域による、一丸となった取組が重要な課題といえます。

■ 地産地消 認知度（推移）

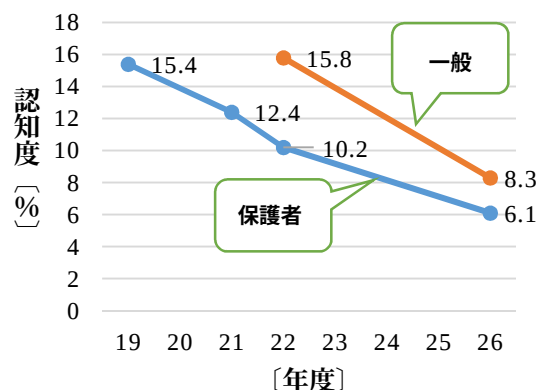


認知度は、ほぼ横ばい～低下ぎみですが、高い認知度です。

地産地消を意識し、数値目標としている地元の農産物を意識している人の増加を図ります。

■ 外食栄養成分表示店 認知度（推移）

【保護者・一般】



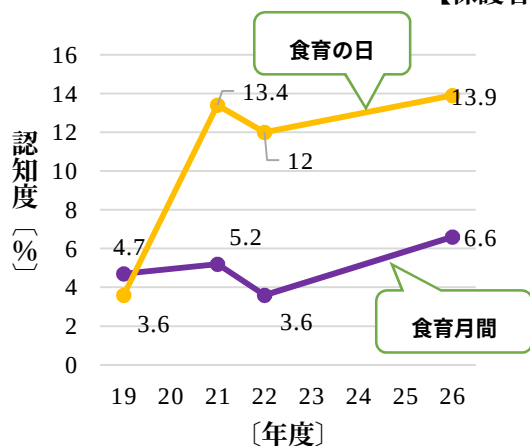
認知度は、低下しています。

市内では、外食栄養成分表示を行う飲食店が増加していない現状を反映し、情報提供が不足していたことも要因と考えられます。

食品を選択する上で栄養成分表示は重要な情報であることから、平成 26 年度からは新たな制度を発足させ、外食栄養成分表示の認知度上昇を図ります。

■ 食育の日（毎月 19 日）・食育月間（毎年 6 月） 認知度（推移）

【保護者】

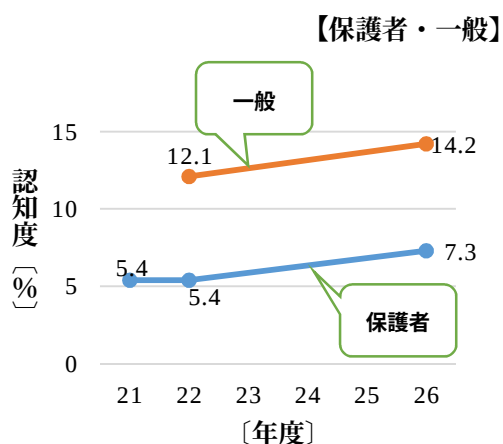


認知度は、上昇傾向にあります。

特に、保育園や幼稚園では、食育の日にちなみ、関連する行事を開催するなどの取組が行われている園もあります。

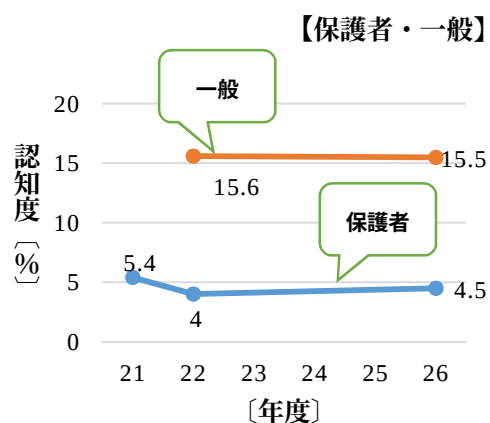
食育月間や食育の日をきっかけに、家庭、友人等と食育にちなんだ会話がなされるよう情報提供等に努めます。

■ 食育推進ボランティア 認知度（推移）

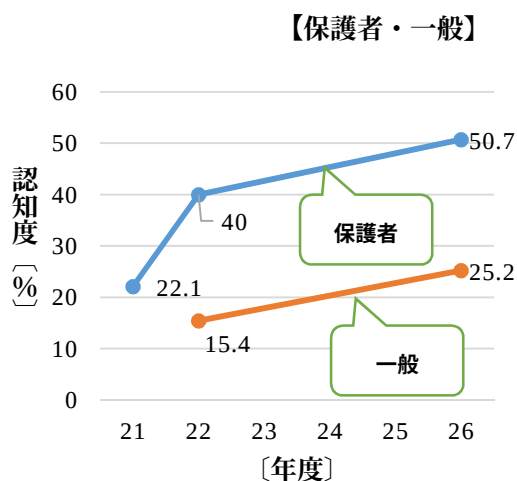


食育推進ボランティア、食生活改善推進員ともに認知度は、ほぼ横ばいです。市民一人ひとりの食育の実践は、食育推進ボランティア等が支援し、協働することにより効果的な取組に繋げることができます。食育を支援するためのネットワーク作り、ボランティアを育成し、認知度の向上を図ります。

■ 食生活改善推進員 認知度（推移）



■ 食育だより 認知度（推移）



食育だよりは、平成 20 年度から市内小中学校全児童・生徒及び平成 26 年度からは市内保育園幼稚園全年長児を対象に食育に関する情報を年 4 回配布しているものです。

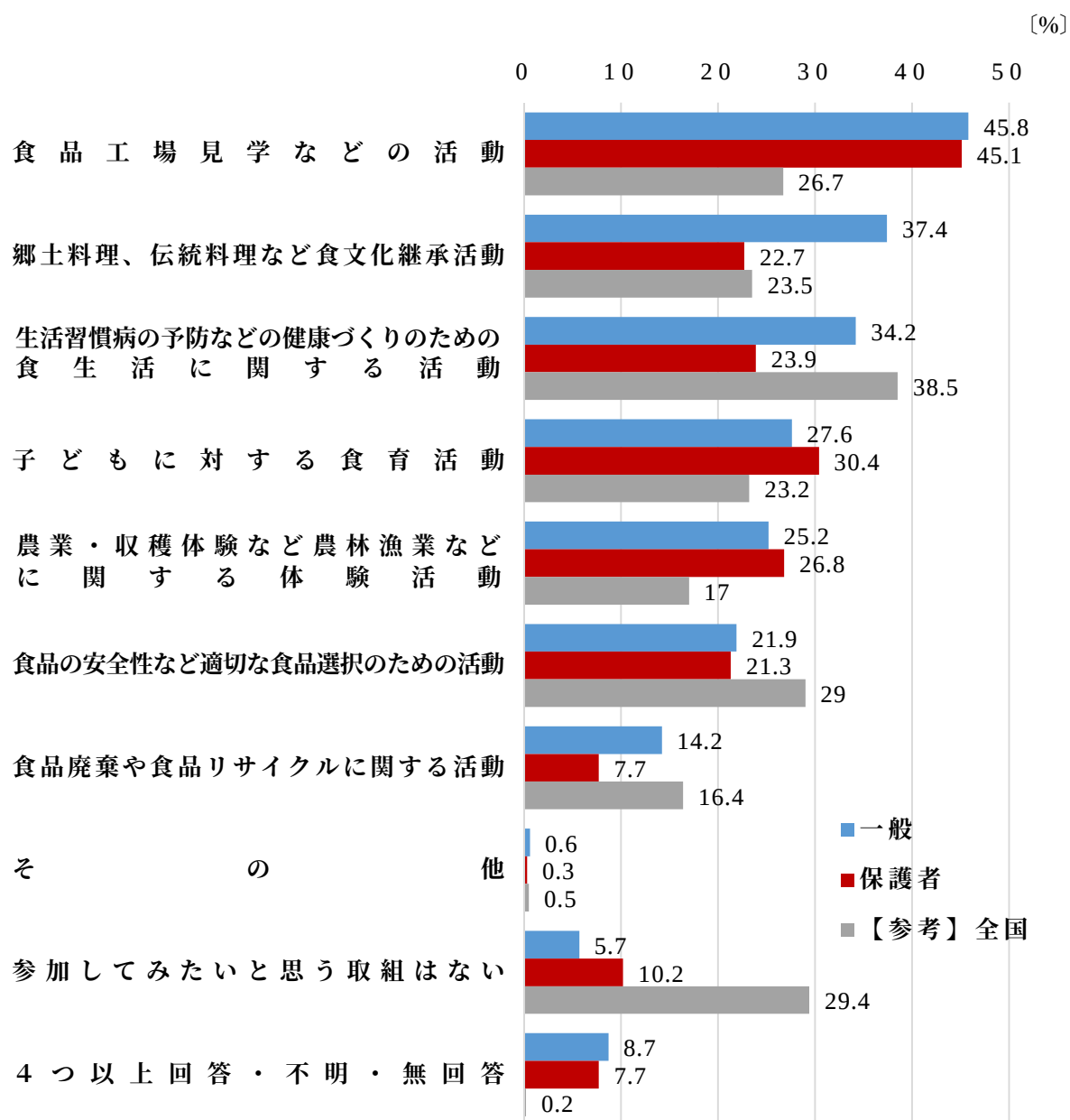
認知度は上昇しており、子どもを通じた食育の情報発信源として、今後ますますの内容充実を図ります。

(2) 食育に関する取組への参加意欲

■ 国や自治体、ボランティア、NPO、企業などの食育に関する取組で参加してみたいものはありますか。

3つまでの複数回答

N:一般 882 人 保護者 7,174 人 MT:一般 212.5% 保護者 188.3%



この質問は、「食育に関する意識調査報告書（平成 26 年 3 月 内閣府食育推進室）」（【参考】全国）と同じ質問を行いました。

このデータと比較して岡崎市では、「食品工場見学などの活動」が高いのが特徴です。

また、「参加してみたい取組はない」が少なく、食育の取組への参加意欲が高いといえます。

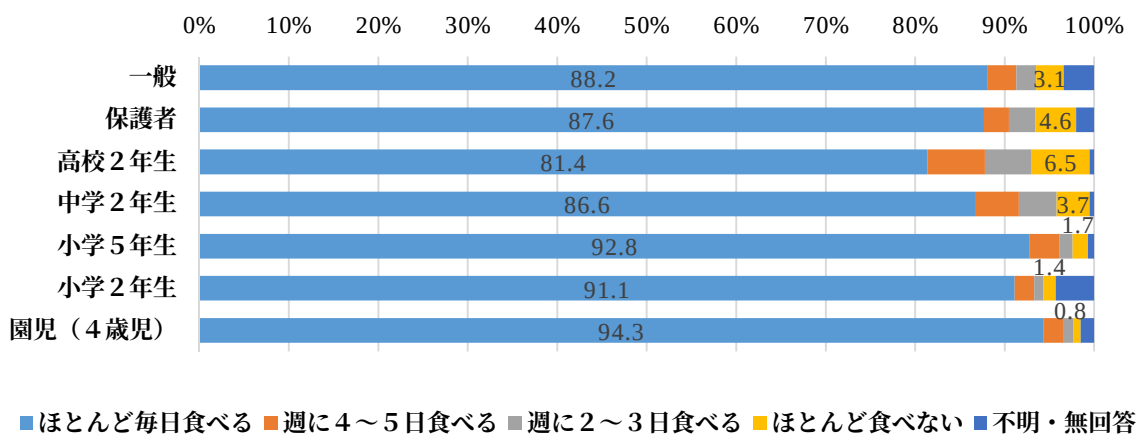
5 食生活について

(1) 朝食の欠食割合

■ ふだん朝食を食べていますか。

単数回答

N：一般 882 人 保護者 7,174 人 高校2年生 1,696 人 中学2年生 614 人
小学5年生 921 人 小学2年生 937 人 園児 3,045 人

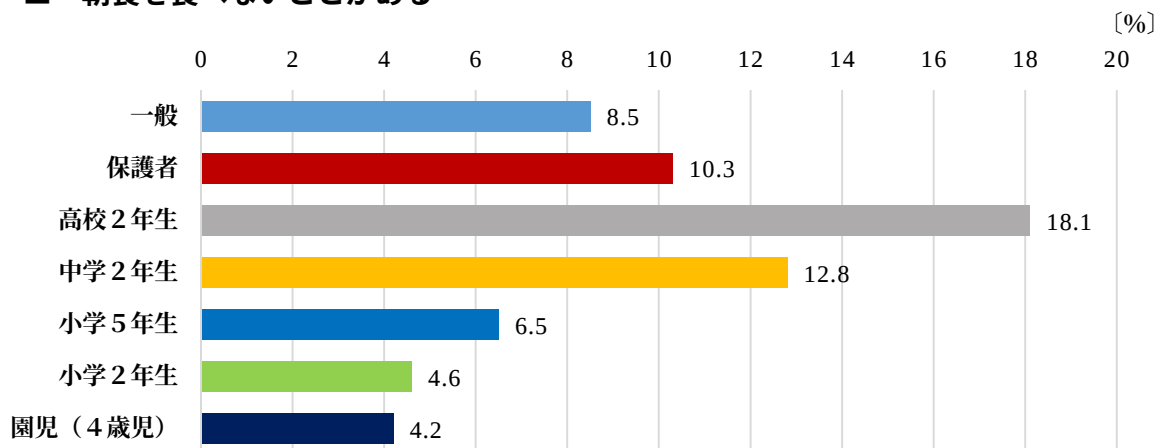


朝食を食べないことがある

[%]

	一般	保護者	高校2年生	中学2年生	小学5年生	小学2年生	園児 (4歳児)
ほとんど毎日食べる	88.2	87.6	81.4	86.6	92.8	91.1	94.3
週に4～5日食べる	3.2	2.8	6.4	4.9	3.3	2.2	2.2
週に2～3日食べる	2.2	2.9	5.2	4.2	1.5	1	1.2
ほとんど食べない	3.1	4.6	6.5	3.7	1.7	1.4	0.8
不明・無回答	3.4	2	0.5	0.5	0.7	4.3	1.5

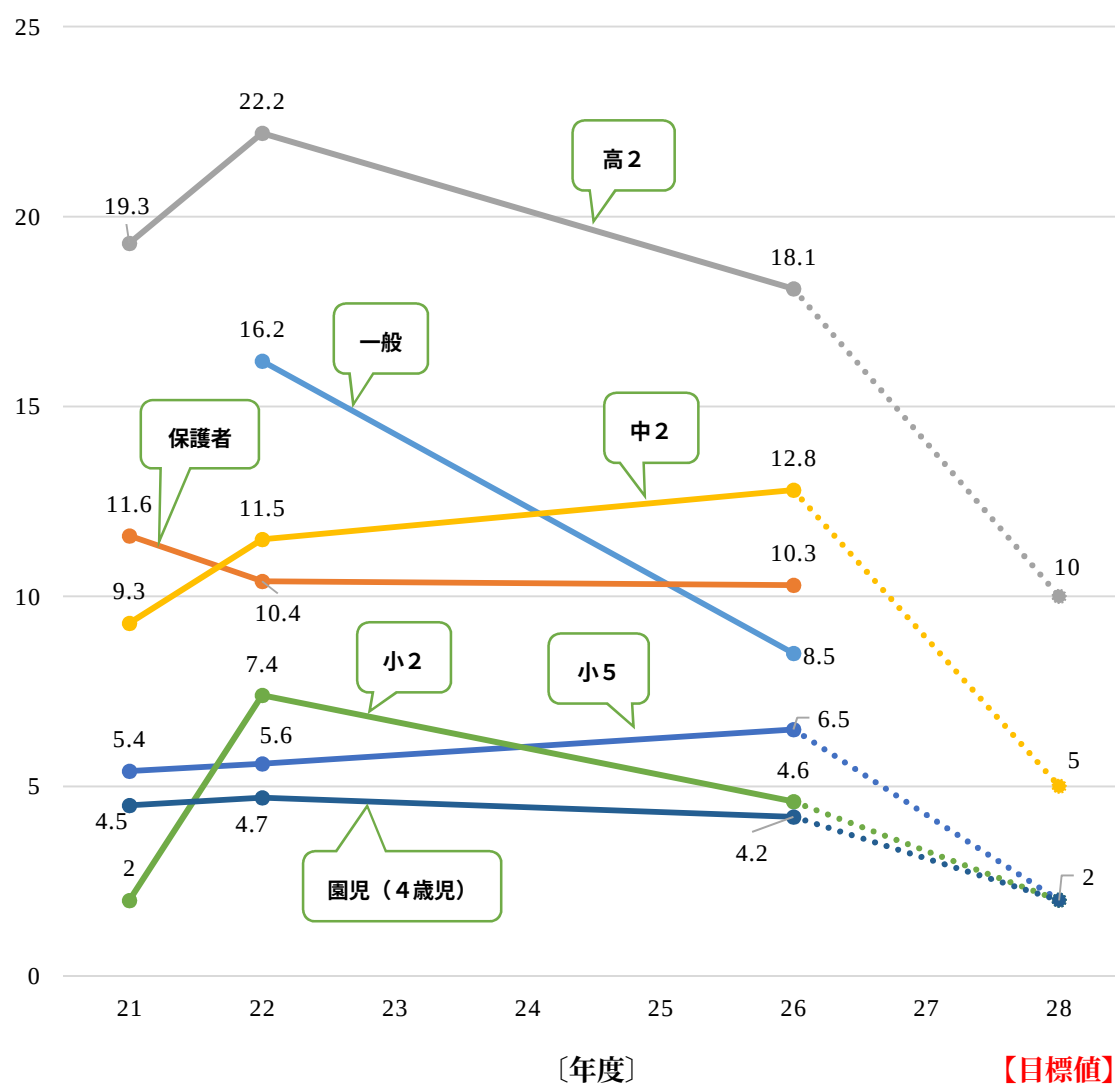
■ 朝食を食べないことがある



朝食を食べないことがある児童・生徒は学年が増えるに従い、上昇しています。
 前回調査と比較すると、小学5年生及び中学2年生において、朝食を食べないことがある生徒の比率が増加しています。

■ 朝食を食べないことがある（推移）

〔%〕



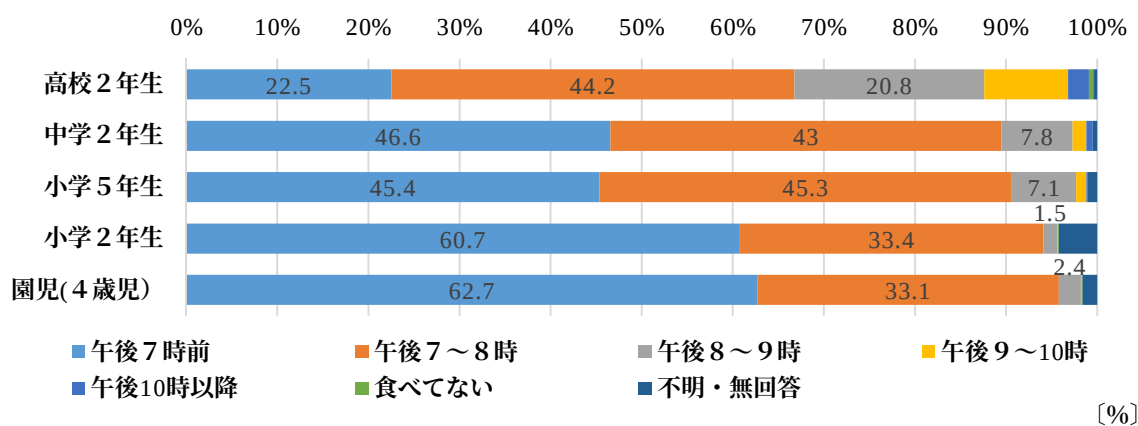
(2) 夕食時間

■ 夕食を何時頃食べますか。

単数回答

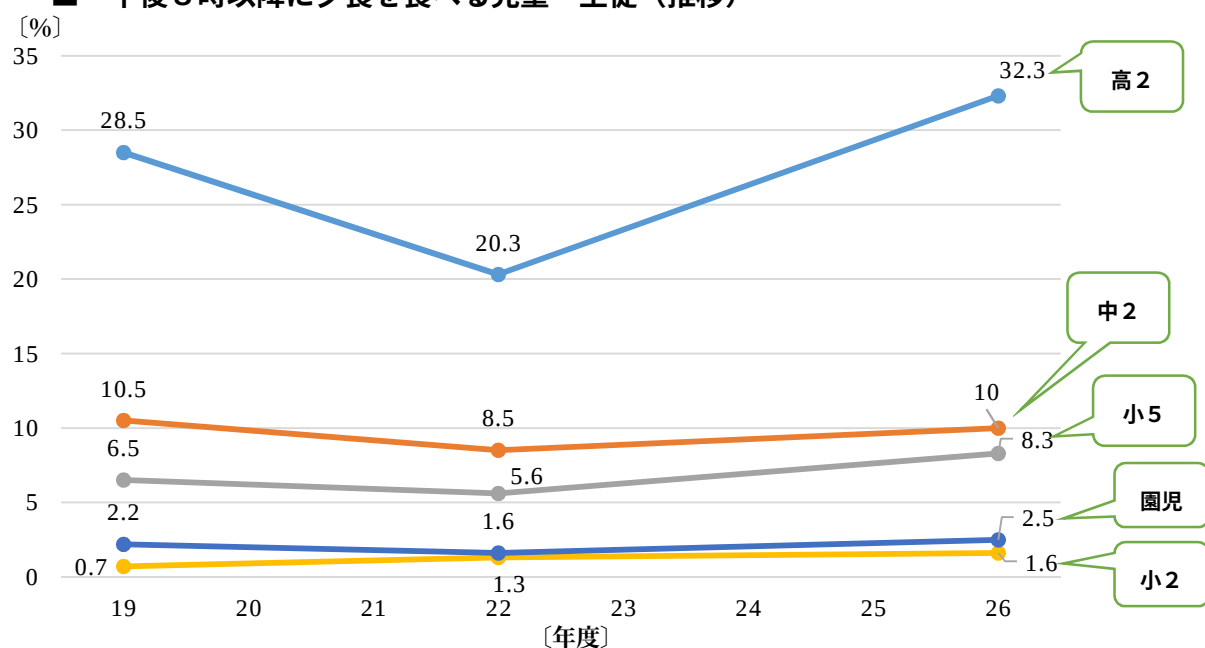
N：高校2年生 1,696人 中学2年生 614人 小学5年生 921人

小学2年生 937人 園児 3,045人



	高校2年生	中学2年生	小学5年生	小学2年生	園児(4歳児)
午後7時前	22.5	46.6	45.4	60.7	62.7
午後7～8時	44.2	43	45.3	33.4	33.1
午後8～9時	20.8	7.8	7.1	1.5	2.4
午後9～10時	9.2	1.5	1.1	0.1	0.1
午後10時以降	2.3	0.7	0.1	0	0
食べてない	0.5	0	0	0.1	0.1
不明・無回答	0.4	0.5	1.1	4.2	1.6

■ 午後8時以降に夕食を食べる児童・生徒（推移）

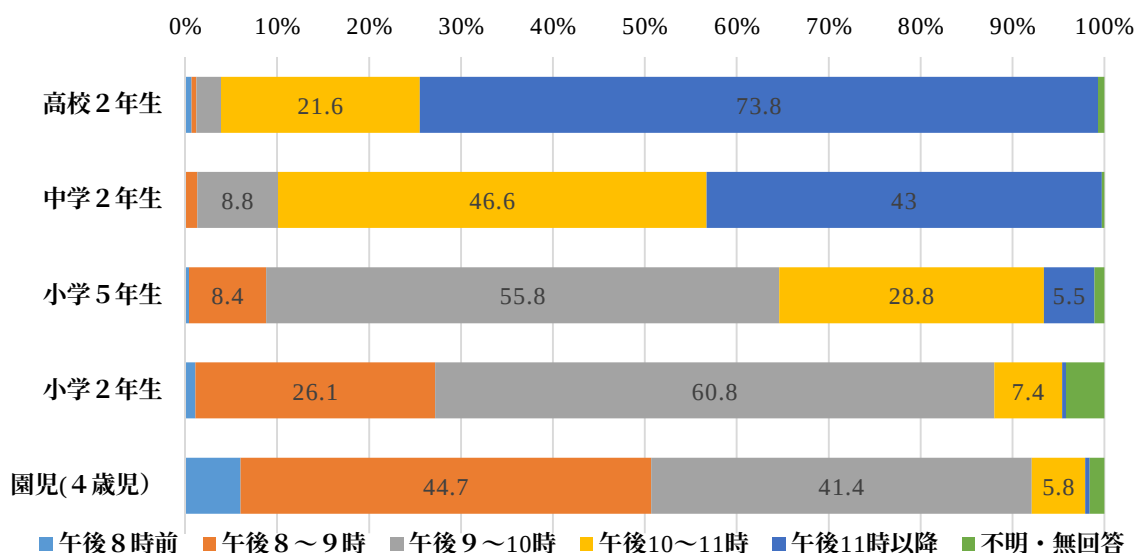


(3) 就寝時間

■ 何時頃寝ますか。

単数回答

N：一般 882 人 保護者 7,174 人 高校2年生 1,696 人 中学2年生 614 人
小学5年生 921 人 小学2年生 937 人 園児 3,045 人



〔%〕

	高校2年生	中学2年生	小学5年生	小学2年生	園児(4歳児)
午後8時前	0.7	0	0.4	1.1	6
午後8～9時	0.5	1.3	8.4	26.1	44.7
午後9～10時	2.7	8.8	55.8	60.8	41.4
午後10～11時	21.6	46.6	28.8	7.4	5.8
午後11時以降	73.8	43	5.5	0.4	0.5
不明・無回答	0.7	0.3	1.1	4.2	1.6

高校2年生は、11 時以降に就寝する生徒が7 割以上となっています。就寝時間は、普段の活動時間の影響を受けており、園児から高校2年生になるにつれて、徐々に遅くなっています。

(4) 朝食の欠食×夕食の時間×就寝する時間（推移）

次のア及びイのグラフの凡例等は次のとおりです。

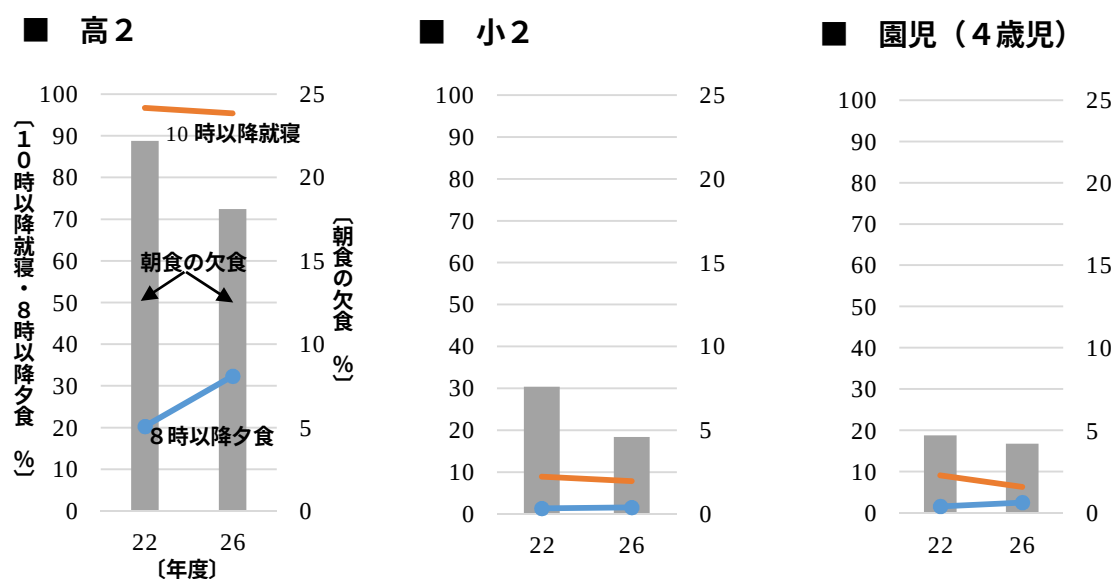
左縦軸：午後8時以降に夕食を食べる児童・生徒のスケール（％）〔折れ線 〓 〕

午後10時以降に就寝する児童・生徒のスケール（％）〔折れ線 〓 〕

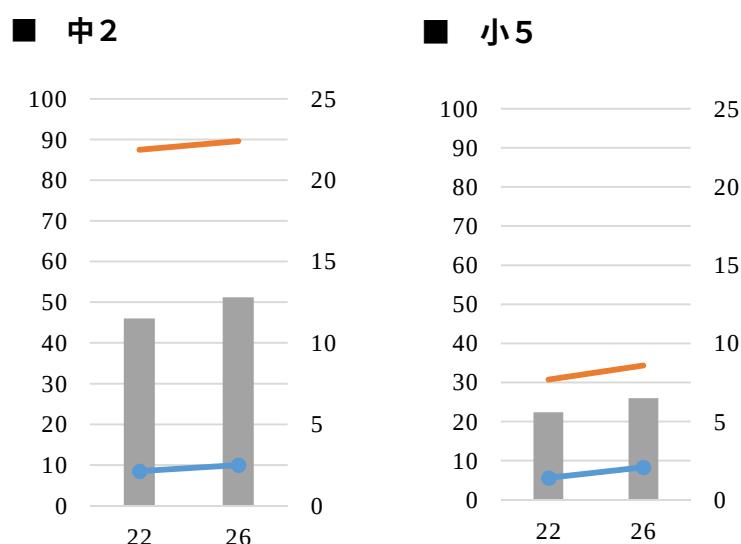
右縦軸：朝食を食べないことがある児童・生徒のスケール（％）〔縦棒線 〓 〕

横 軸：年度

ア 朝食の欠食が改善している学年



イ 朝食の欠食が後退している学年



すべての学年で午後8時以降に夕食を食べる児童・生徒の割合が増加しています。朝食の欠食が改善している年代は、午後10時以降に就寝する児童・生徒の割合が減少している特徴があります。

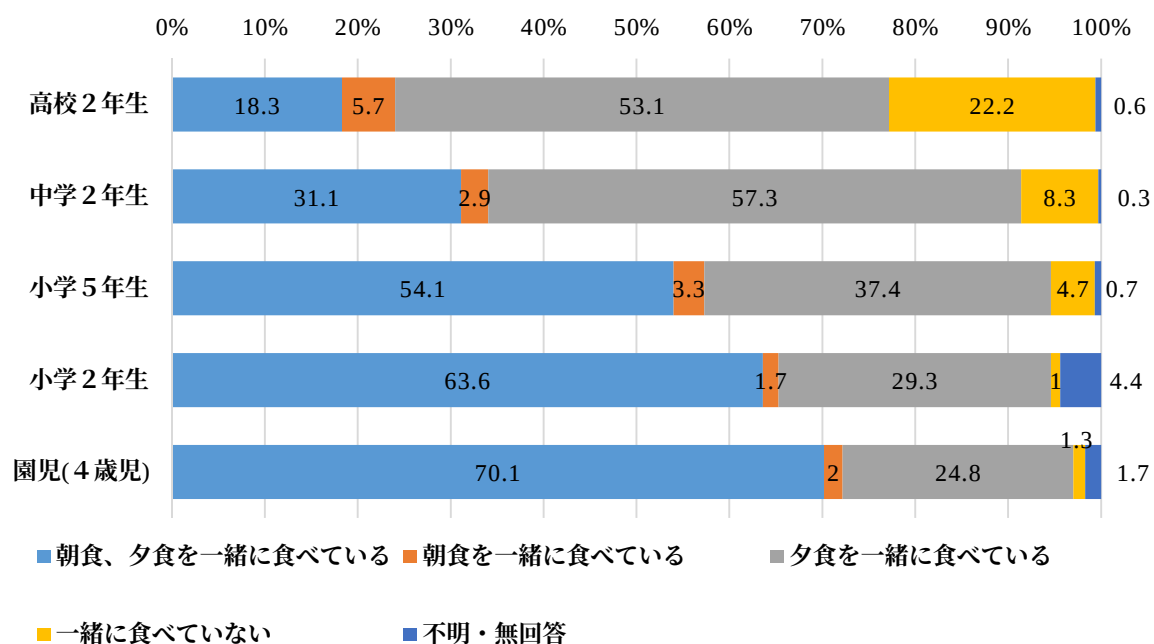
(5) 家族との食事

■ 家族と一緒にごはんを食べていますか。

単数回答

N：高校2年生 1,696人 中学2年生 614人 小学5年生 921人

小学2年生 937人 園児（4歳児）3,045人



園児及び小学2年生では、「朝食、夕食を一緒に食べている」が高く、学年の上昇とともに、中学2年生及び高校2年生では「夕食を一緒に食べている」が高くなります。

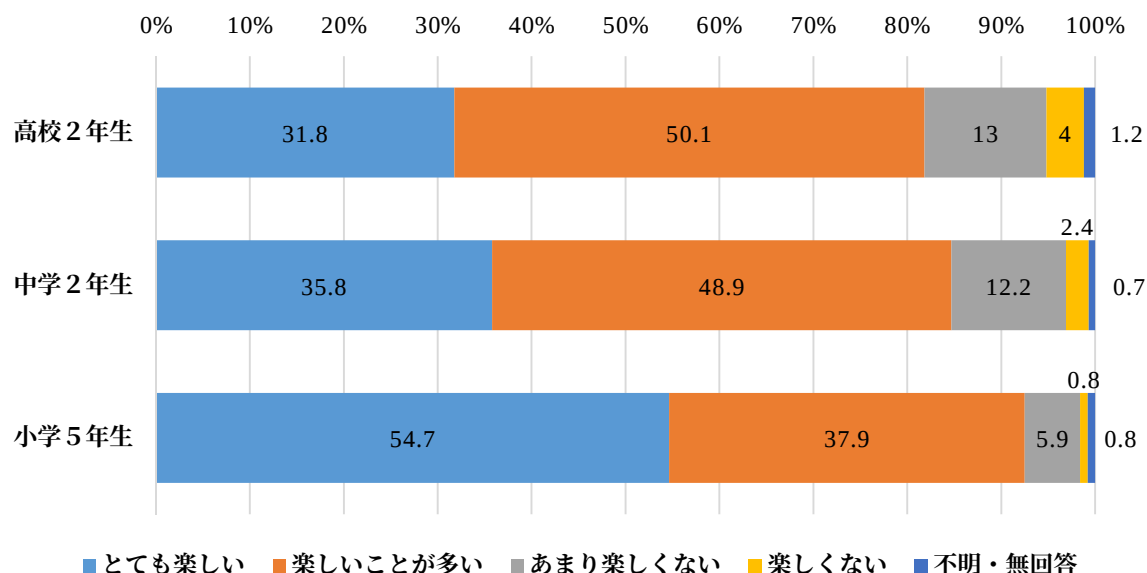
これは、通学距離や部活動といった、生活スタイルが変化したことが要因と考えられます。

(6) 食事の時間の楽しさ

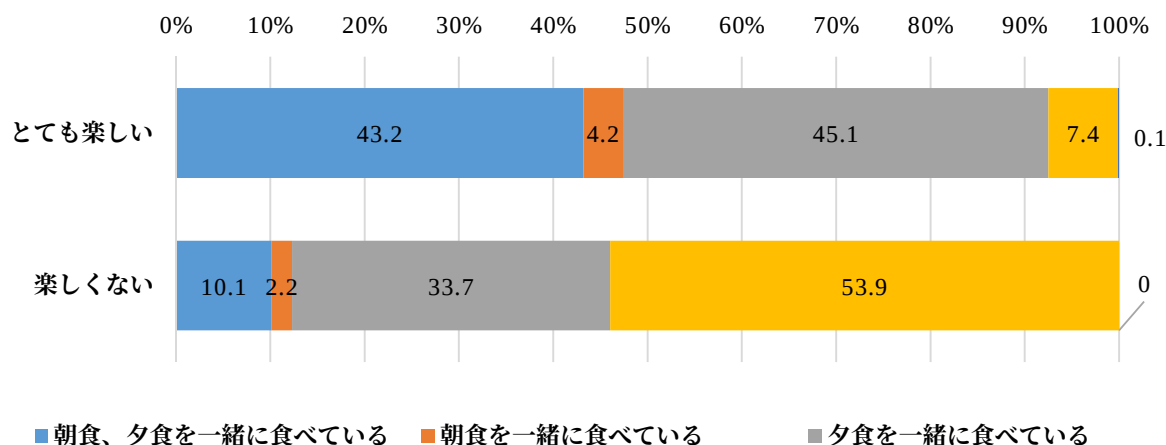
■ 家での食事の時間は楽しいですか。

単数回答

N：高校2年生 1,696人 中学2年生 614人 小学5年生 921人



■ 「家での食事の時間は楽しいですか」 × 「家族と一緒にごはんを食べていますか」



学年が上昇するにつれ、「あまり楽しくない」「楽しくない」が増加しています。

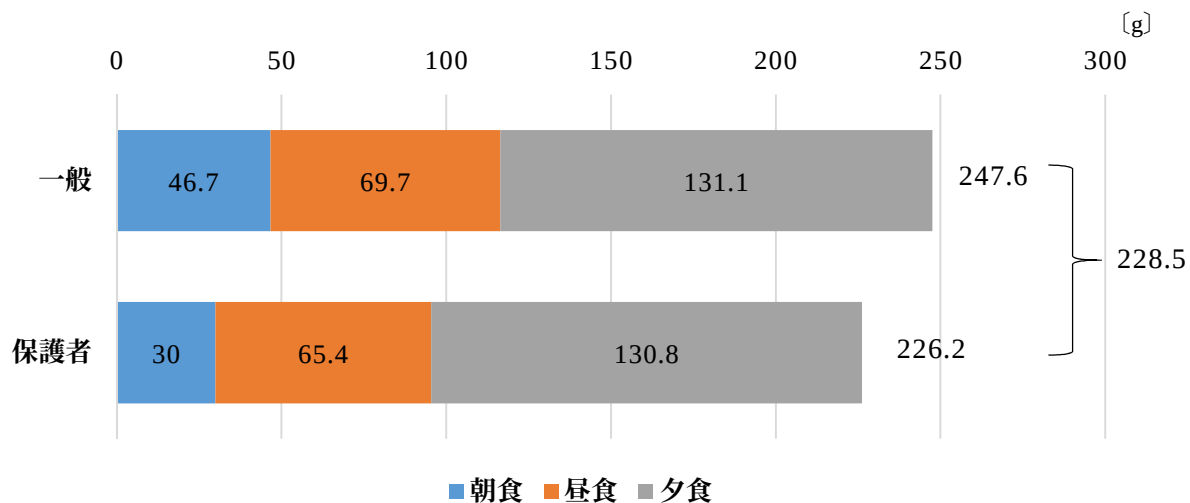
「とても楽しい」と「楽しくない」についてみると、家族と一緒に食事をしている人の4割は、「とても楽しい」と感じており、「楽しくない」と感じている人の半数は、家族と一緒に食事をしていないことが分かります。食事の楽しさには、家族揃って食事をするものが大きく関係しています。

(7) 1日あたり野菜摂取量

■ 野菜料理をどのくらい食べますか。

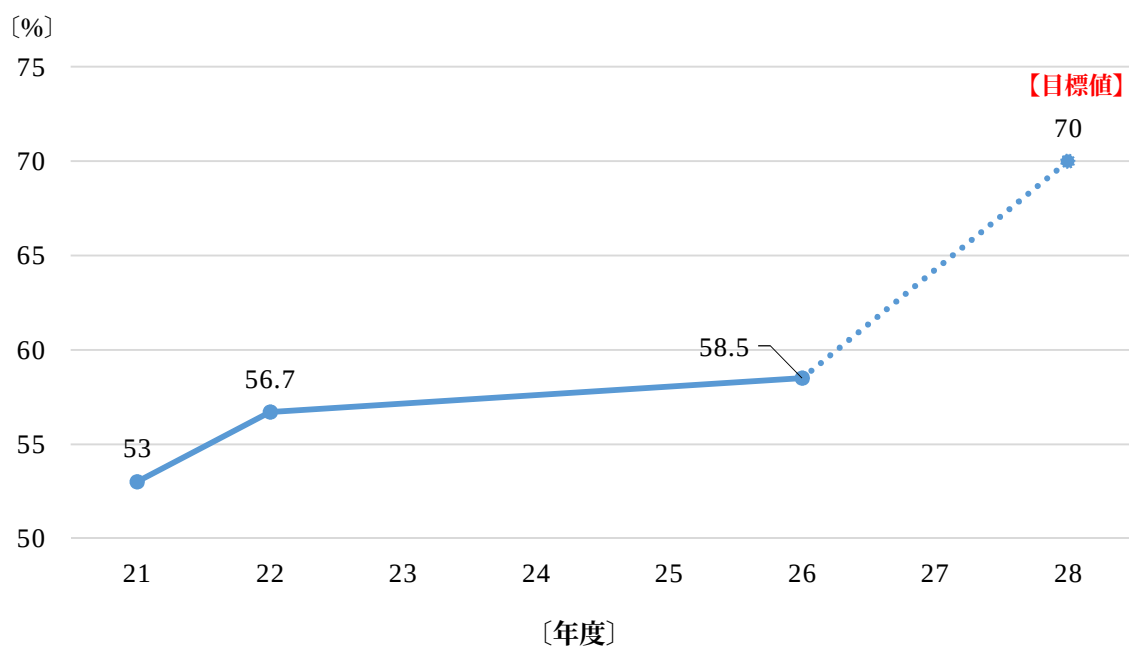
単数回答

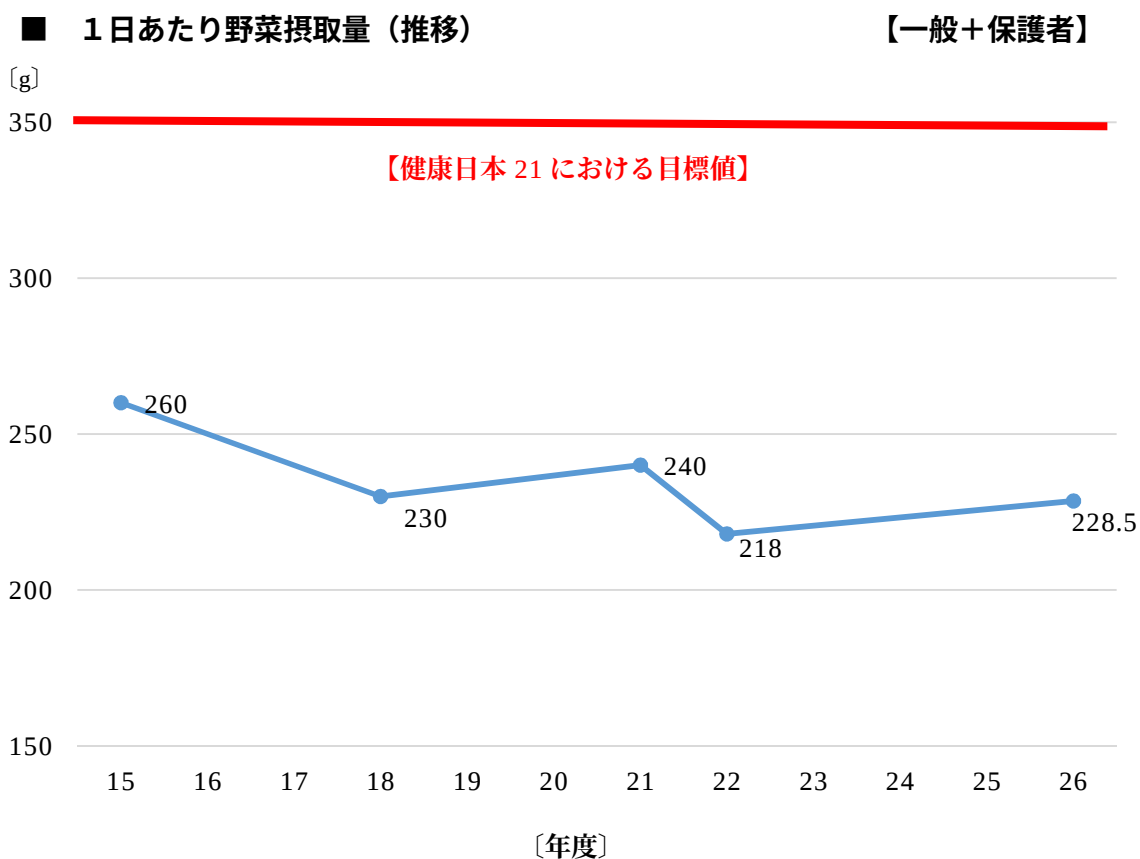
N：一般 818 保護者 6,898



■ 朝食に野菜を食べている人の割合（推移）

【保護者】





228.5 g（一般 247.6g、保護者 226.2g）は、国（健康日本 21）の野菜摂取量の目標である 350g と比較して大きく不足しています。

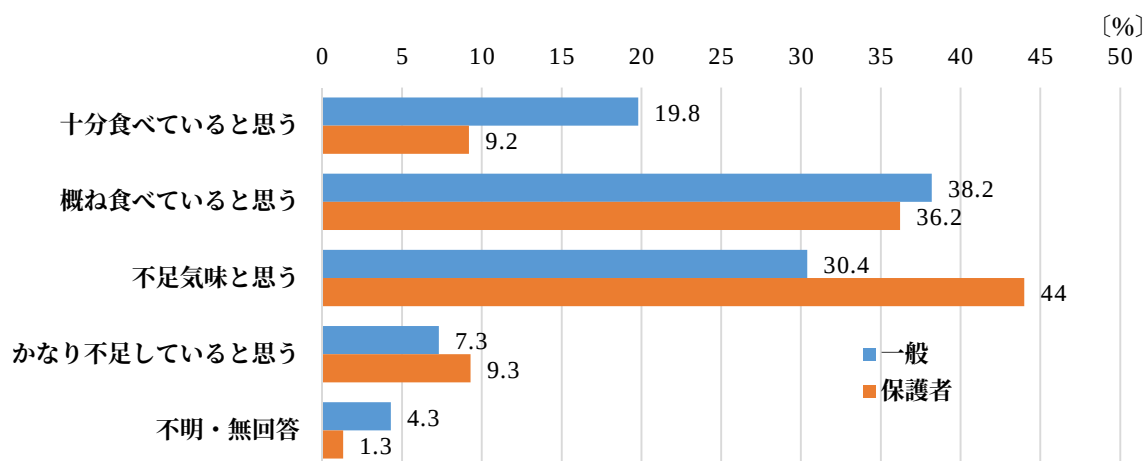
また、これは、平成 24 年国民健康・栄養調査結果において、愛知県は男女ともに野菜摂取量が 47 都道府県中 47 位（男性 243g、女性 240 g）という成績とも類似しており、岡崎市民の野菜摂取量も著しく不足していることが推測されます。

(8) 野菜摂取意識

■ 野菜を十分食べていると思いますか。

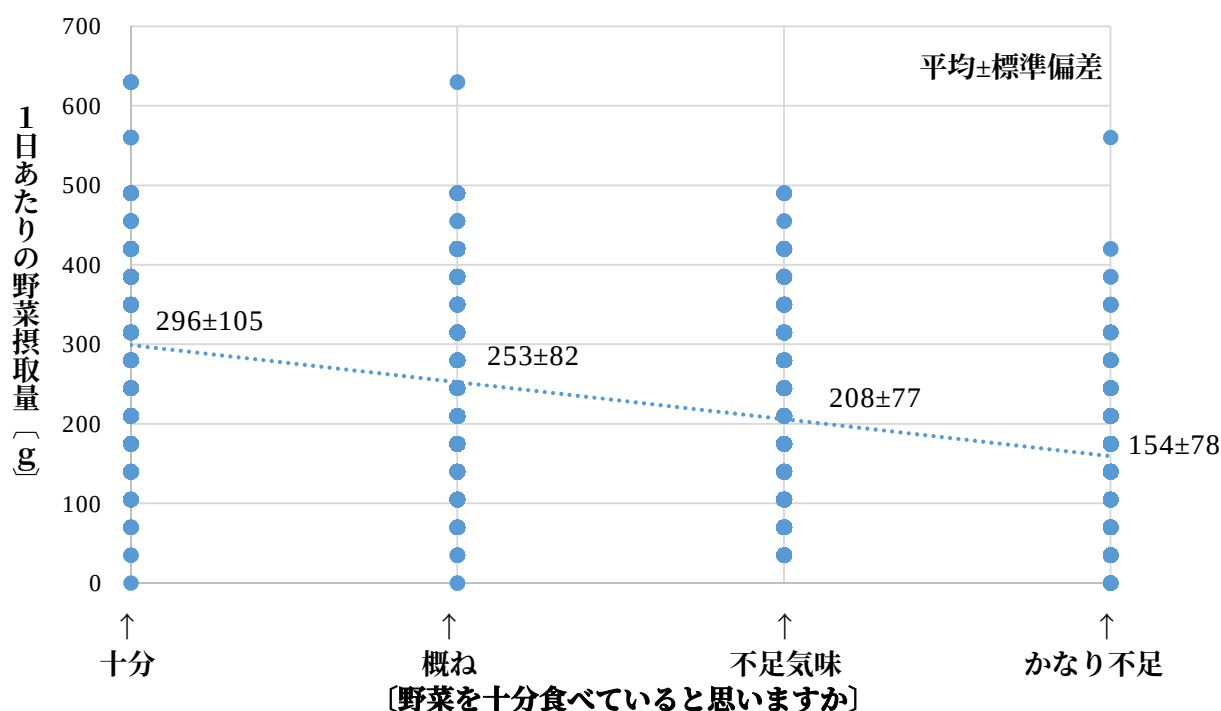
単数回答

N：一般 882 人 保護者 7,174 人



■ 「野菜摂取量」×「野菜摂取意識」

N：一般・保護者 7,399



十分食べていると思っている人でも平均 296g でした。

上のグラフのとおり、1日あたり野菜摂取量と野菜摂取意識には相関がみられます。

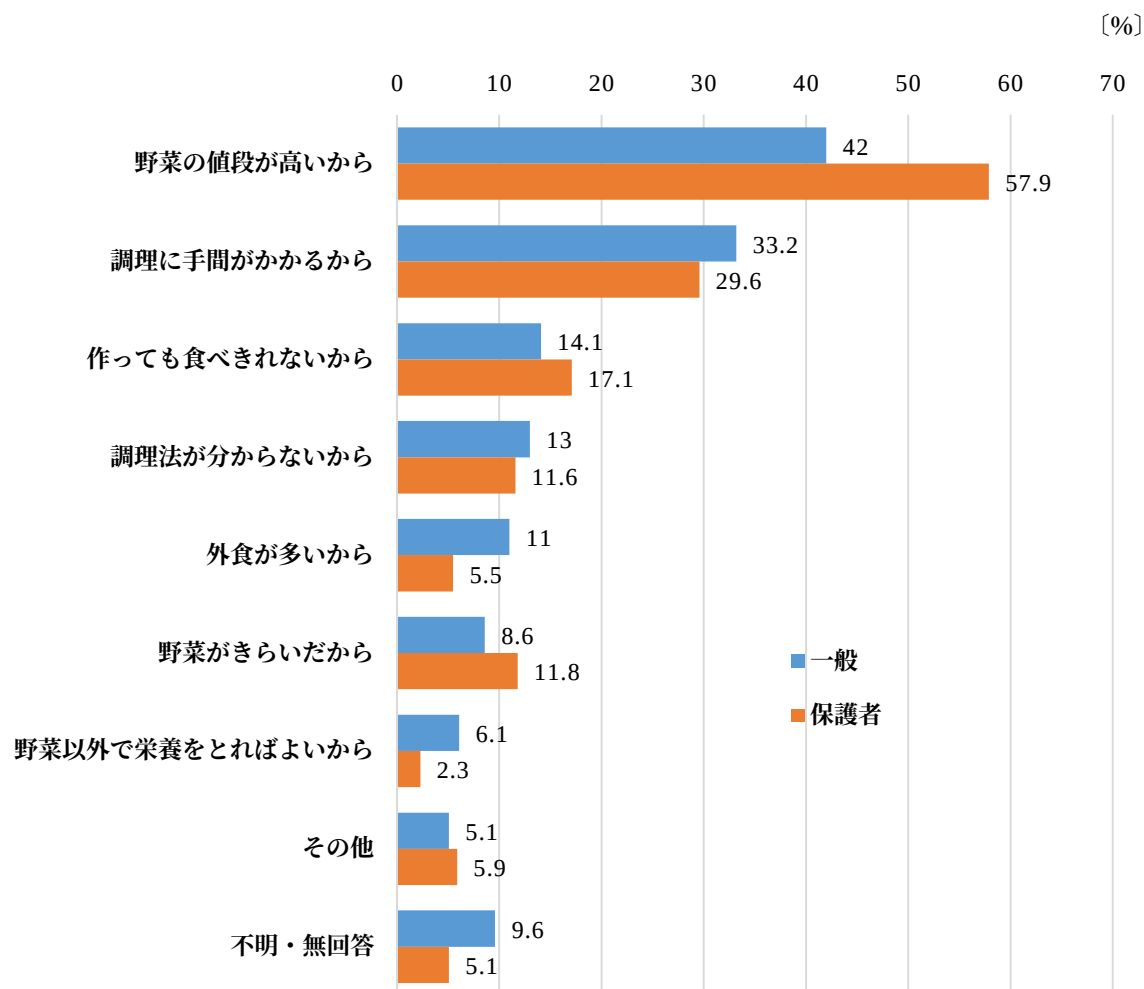
このことから、日頃から野菜を意識して摂取することが重要であることが分かります。

(9) 野菜摂取不足理由

■ 野菜が不足しやすい理由として考えられるのは何ですか。

複数回答

N：一般 882 人 保護者 7,174 人 MT：一般 142.7% 保護者 141.7%



「野菜の値段が高いから」が多くなっています。値段が高くても野菜を摂取する価値観を改めていただくための情報提供が必要といえます。

次いで「調理に手間がかかるから」となっています。自由記載意見においても、手軽に調理できるレシピを教えてほしいとの意見が多く挙げられています。

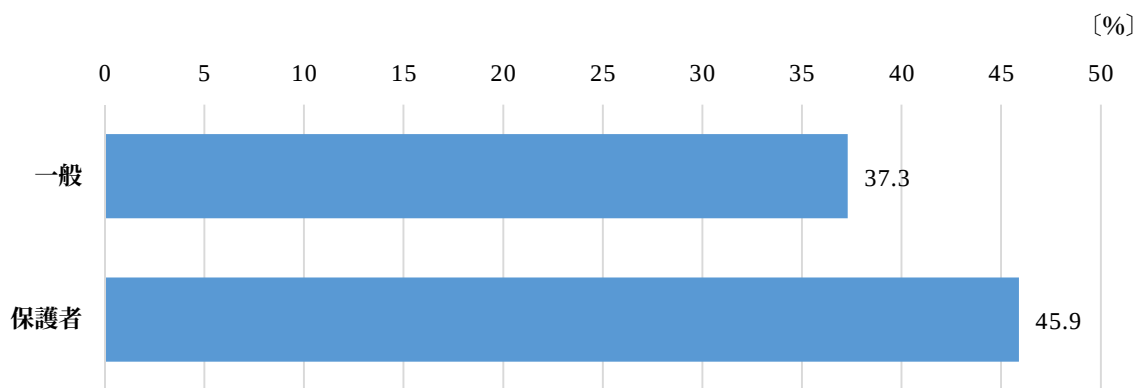
6 次世代への食育について

(1) 家庭の伝承料理

■ あなたの家庭では、両親や祖父母から教わった料理や味付で、今でも作っている料理はありますか。(あると回答した人)

単数回答

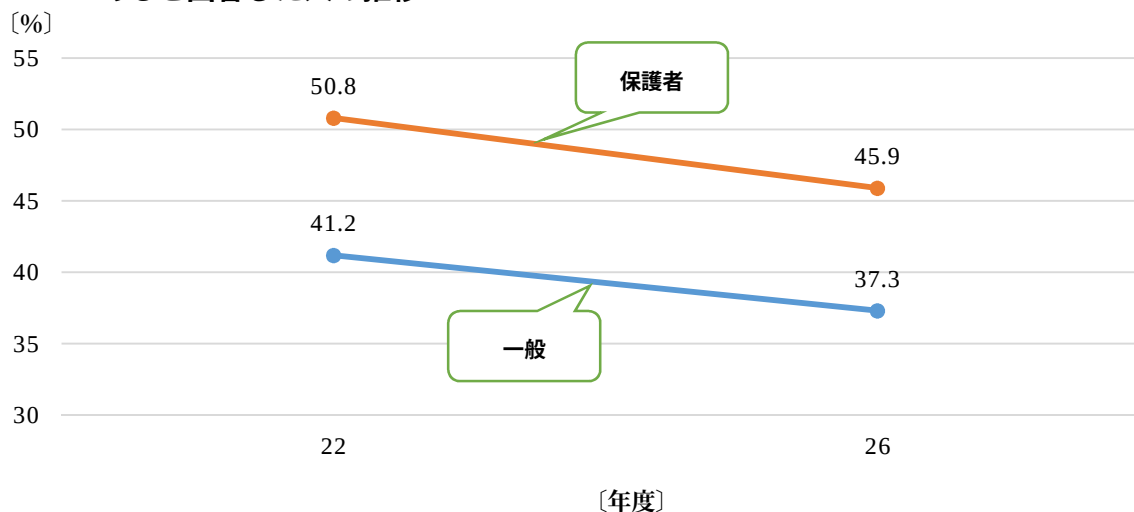
N (不明・無回答を除く)：一般 773 人 保護者 6,744 人



具体的な料理名 (主なもの)

煮物類、味噌汁、魚の煮付け、雑煮、肉じゃが、おせち料理、きんぴらごぼう、ちらし寿司、どて煮、卵焼き

■ あると回答した人の推移



前回の調査と比較して、「ある」と回答した人の割合が低下しています。教わった料理には、岡崎市の特産である味噌を使った料理 (どて煮、味噌おでん、味噌田楽、鯖の味噌煮、豚汁) も多く挙げられており、郷土料理との繋がりもみられます。

(2) 子どもの得意料理

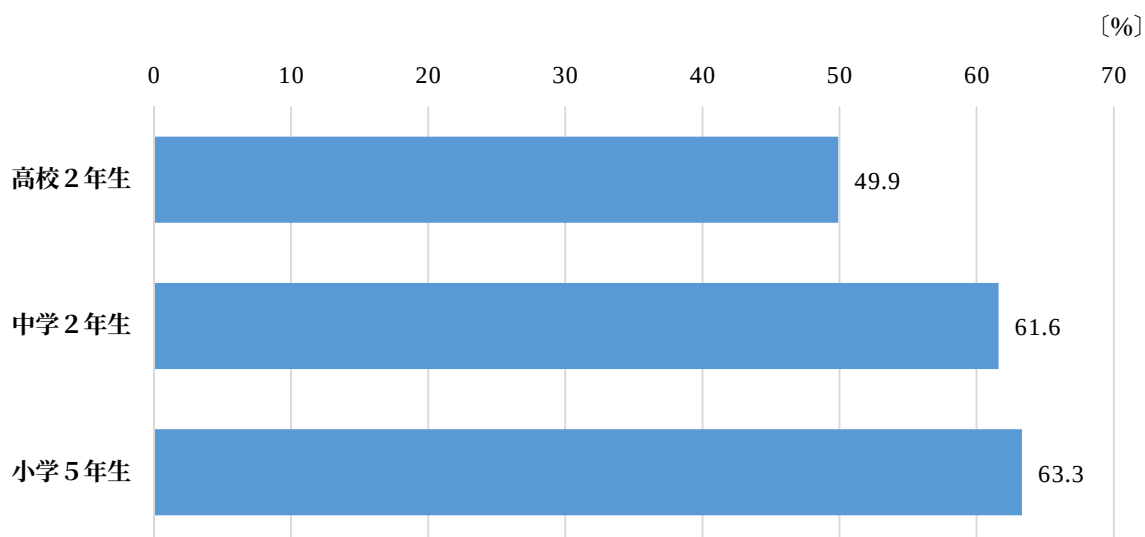
■ 自分ひとりで作ることができる得意な料理はありますか。

(あると回答した児童・生徒)

単数回答

N (不明・無回答除く) : 高校2年生 1,696人 中学2年生 614人

小学5年生 921人



具体的な料理名 (主なもの)

高校2年生 : チャーハン、オムライス、クッキー、卵焼き、目玉焼き、
カレーライス

中学2年生 : 卵焼き、目玉焼き、スクランブルエッグ、チャーハン、
ホットケーキ、クッキー

小学5年生 : 卵焼き、目玉焼き、スクランブルエッグ、ほうれん草のお浸し

(3) 家での手伝い

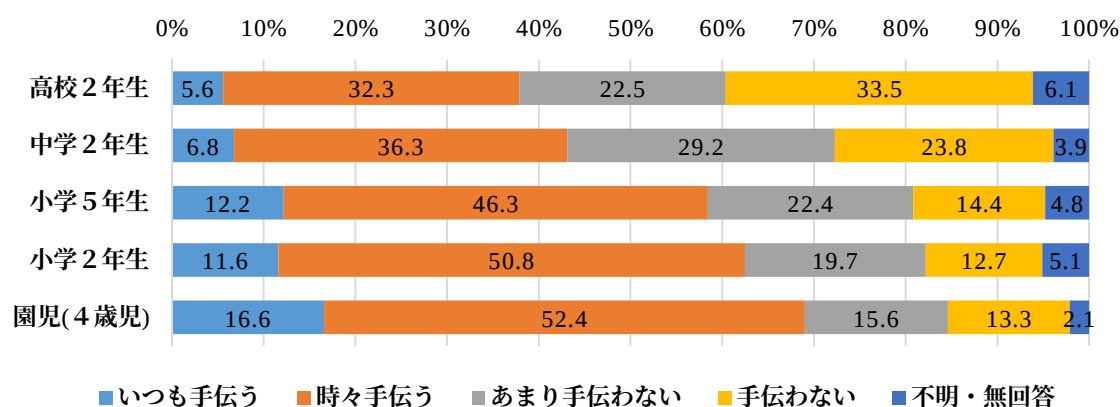
家でどんなことを手伝っていますか。

単数回答

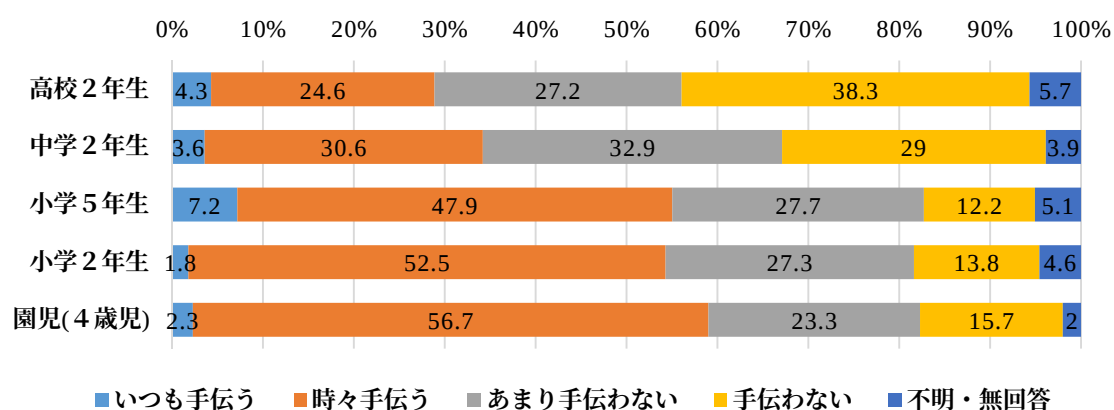
N：高校2年生 1,696人 中学2年生 614人 小学5年生 921人

小学2年生 937人 園児（4歳児）3,045人

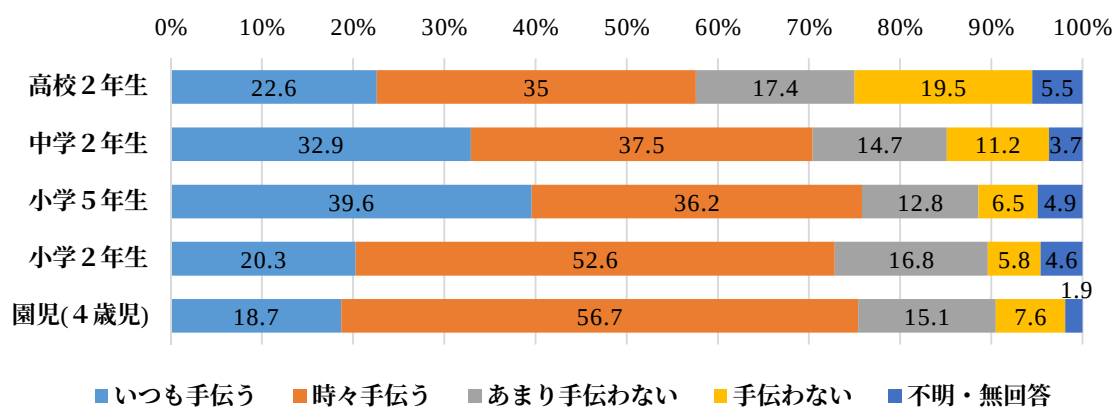
■ 買い物



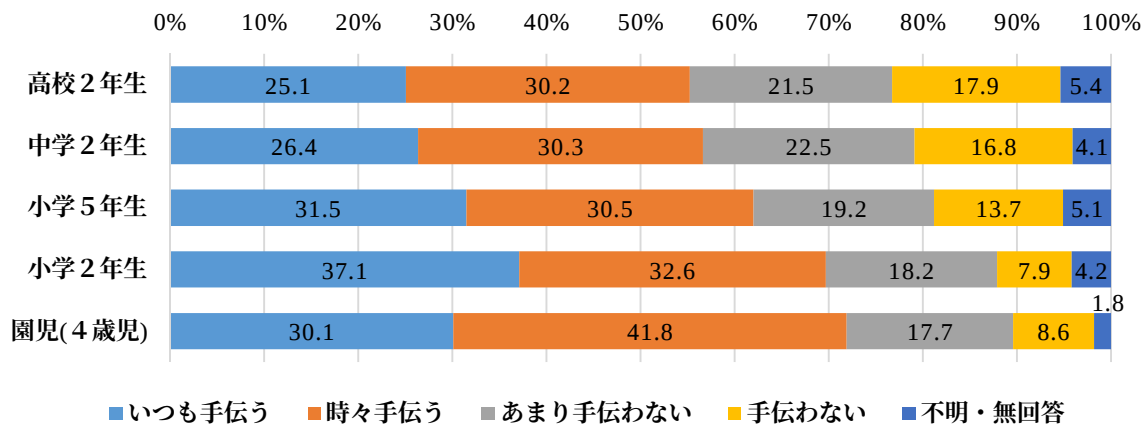
■ 料理の手伝い



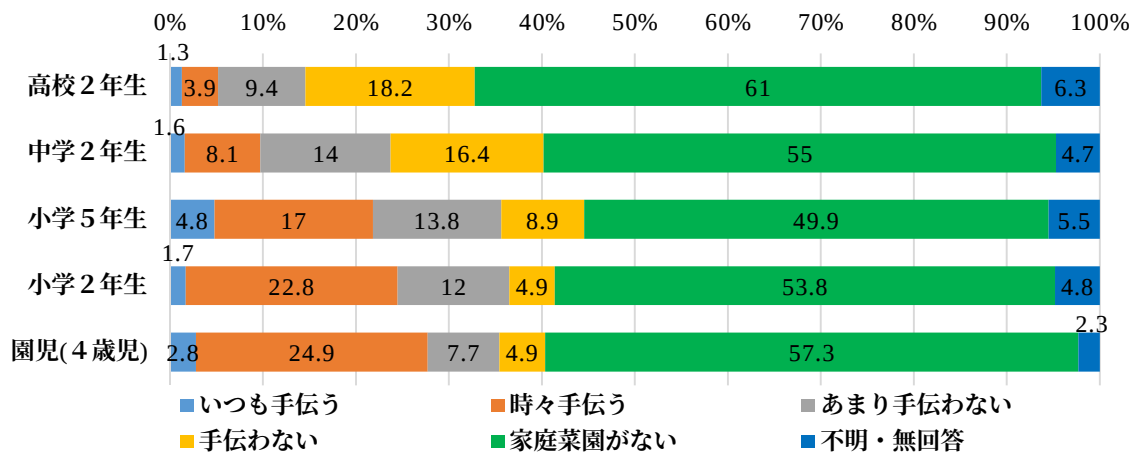
■ 食卓の準備（食器を並べるなど）



■ 食器の後片付け



■ 家庭菜園の世話



家での手伝いは、学年が上がるにつれ、手伝うことが少なくなる傾向にあります。
家庭菜園がないという家庭は約半数にのぼっています。

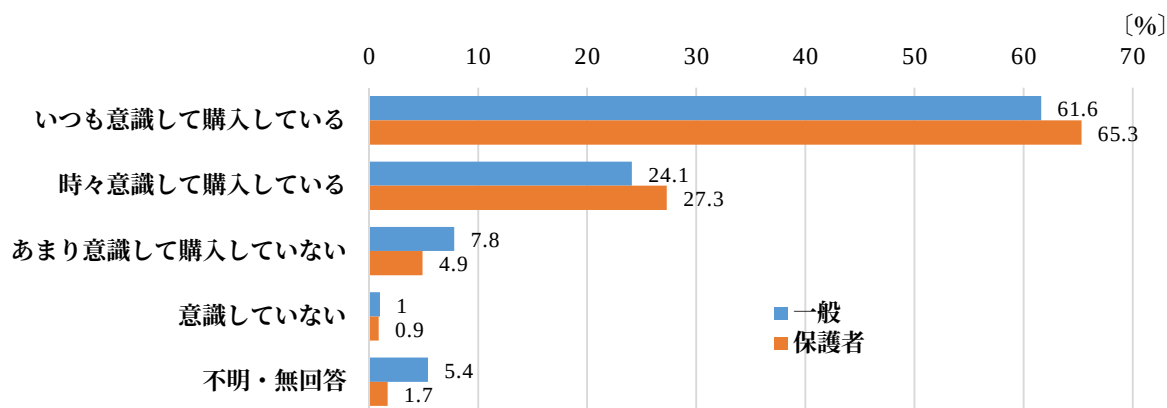
7 食品の選択について

(1) 食品表示に対する意識

■ 食品の購入時、食品表示を意識していますか。

単数回答

N：一般 882 人 保護者 7,174 人

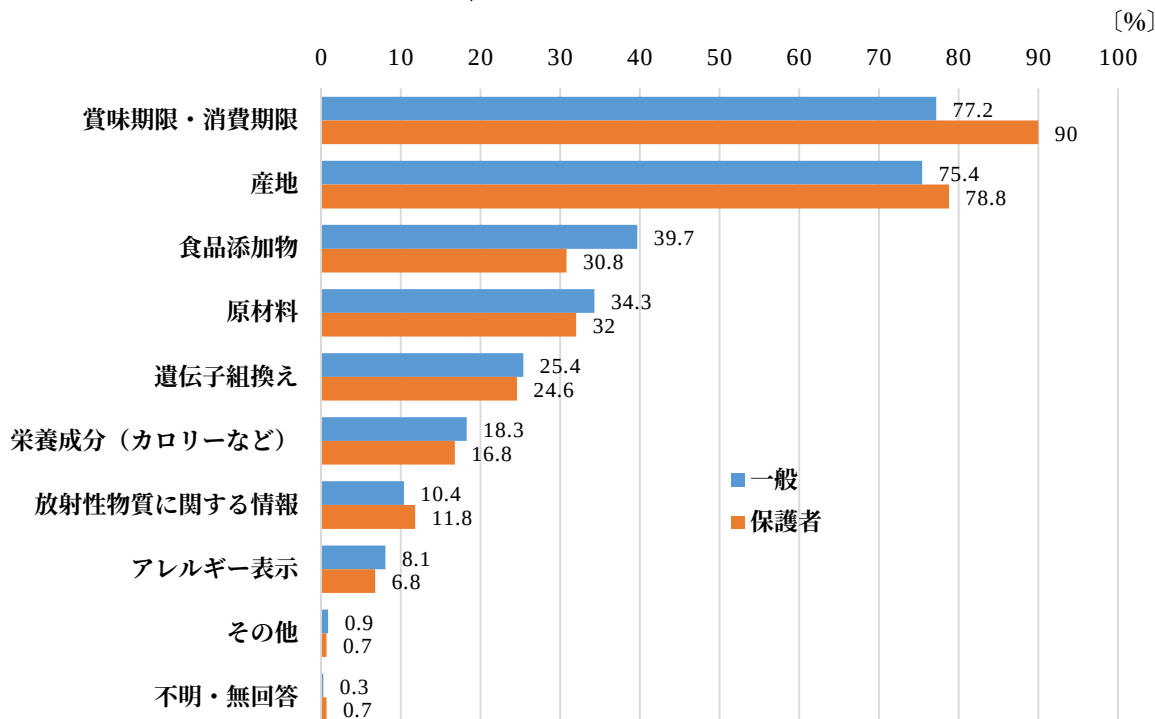


「いつも意識して購入している」が高くなっており、「時々意識して購入している」も合せて、8割以上の方が食品表示を意識しています。

■ 特に何を意識して購入していますか。

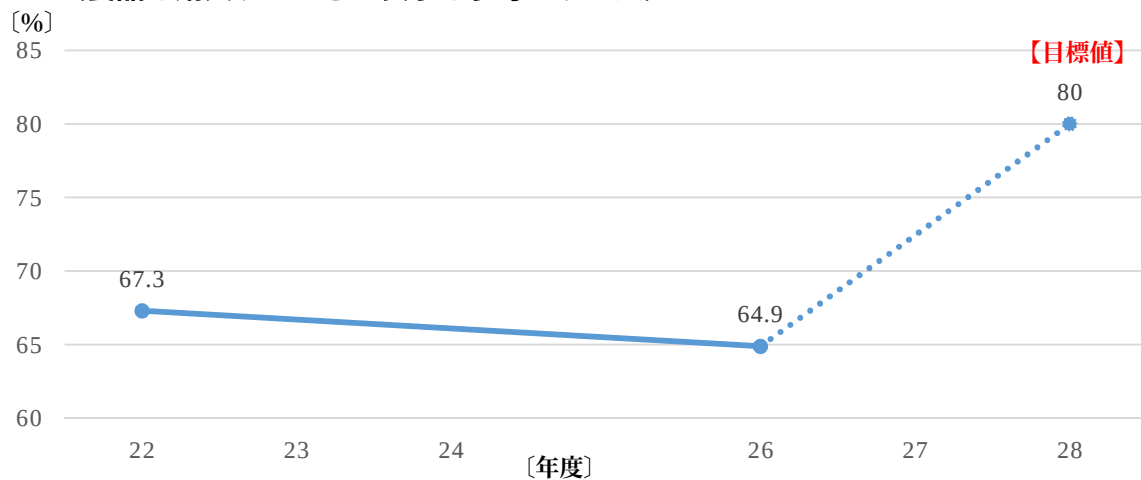
複数回答（「いつも意識」・「時々意識」回答者）

N：一般 756 人 保護者 6,643 人 MT：一般 289.7% 保護者 292.3%



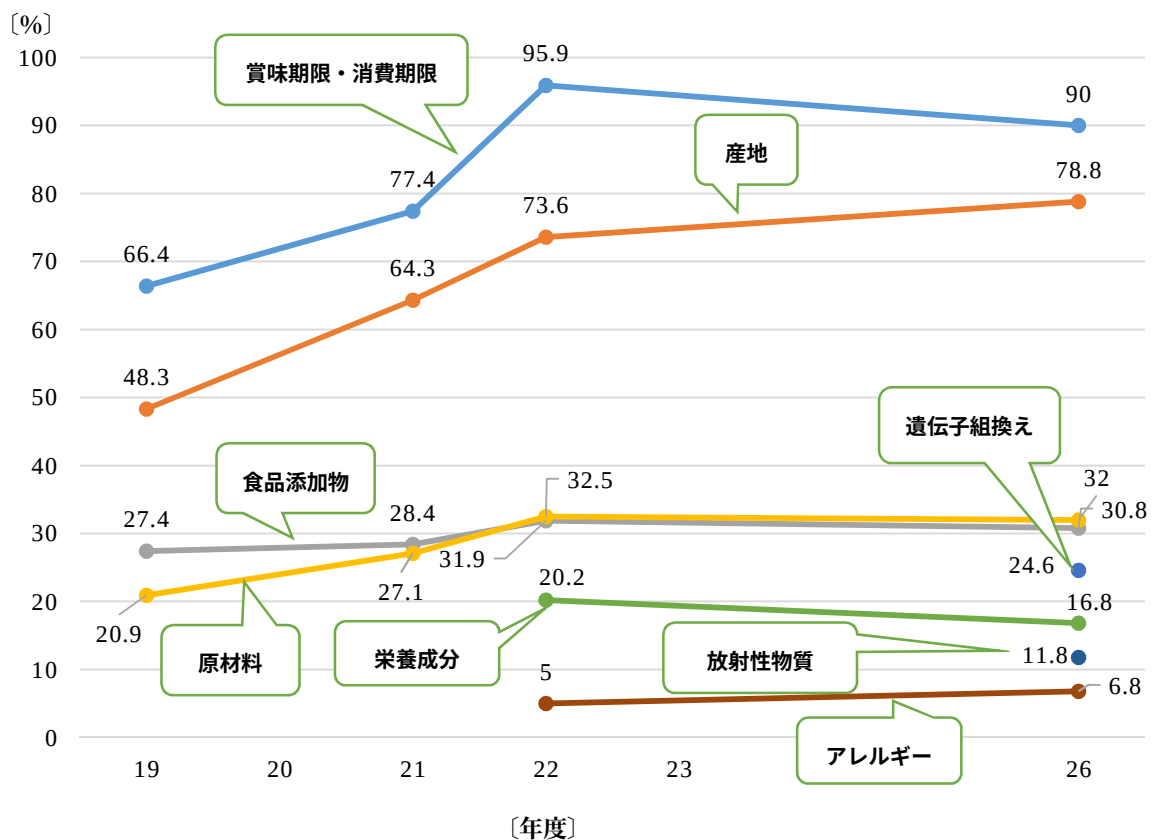
（「放射性物質に関する情報」は、食品の表示対象ではありませんが、平成 23 年 3 月に発生した福島第一原子力発電所事故をきっかけに放射性物質に関する情報を掲示（表示）する店舗もあることから、その意識を把握するため、今回アンケート選択肢に加えました。）

■ いつも意識して購入している人（推移）
（食品を購入するときに表示を参考にする人）



■ 特に何を意識して購入していますか。（推移）

【保護者】



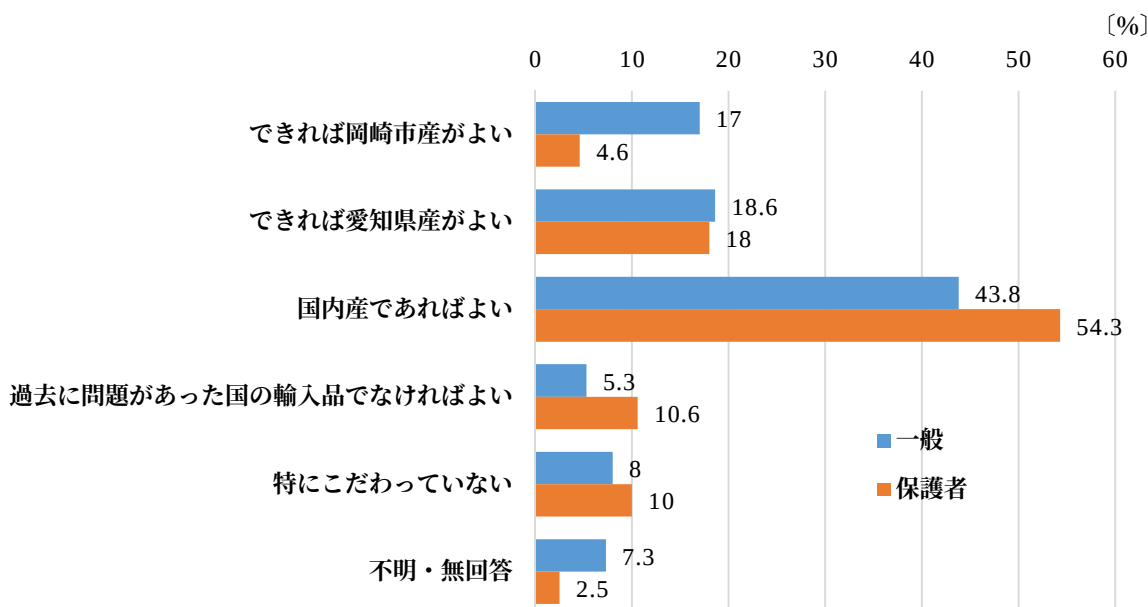
「賞味期限・消費期限」が最も高く、ほとんどの人が確認しています。「産地」についても徐々に高くなっていますが、その他は、比較的低いままとなっています。

(2) 野菜の産地

■ 野菜を購入する際、産地にこだわっていますか。

単数回答

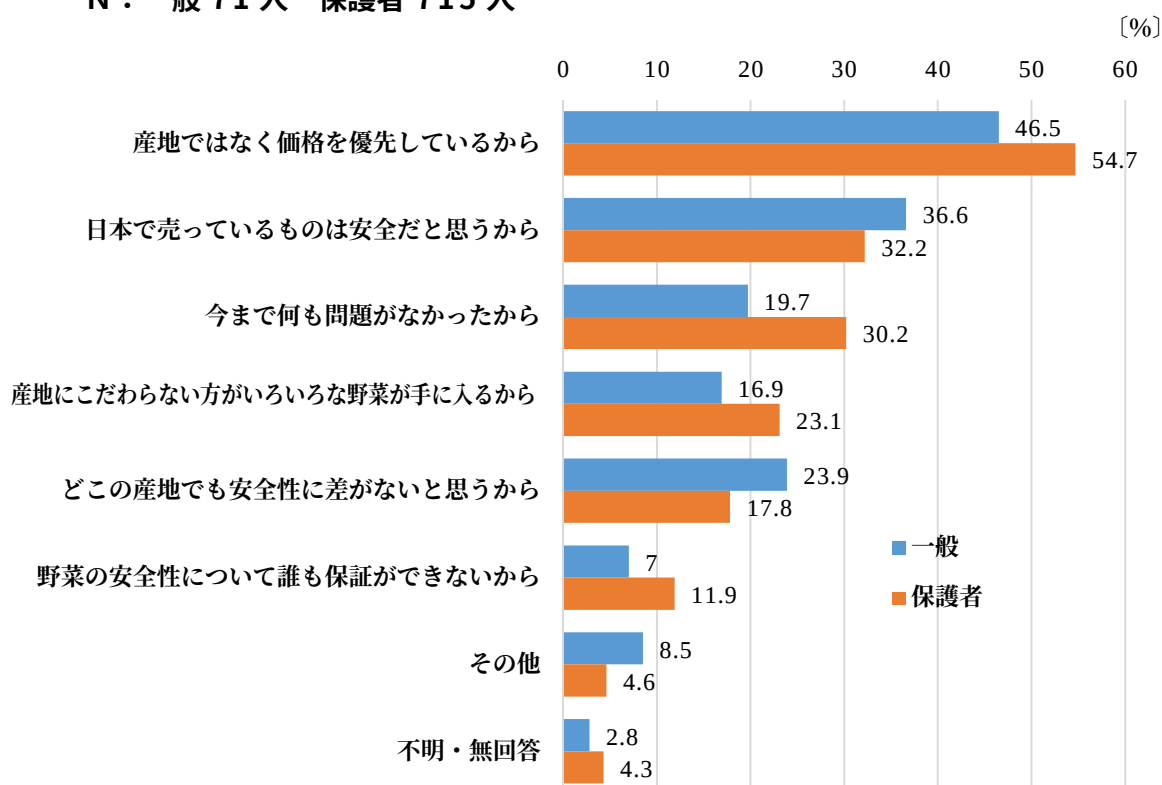
N：一般 882 人 保護者 7,174 人



■ 産地にこだわらない理由

複数回答（「特にこだわっていない」回答者）

N：一般 71 人 保護者 715 人

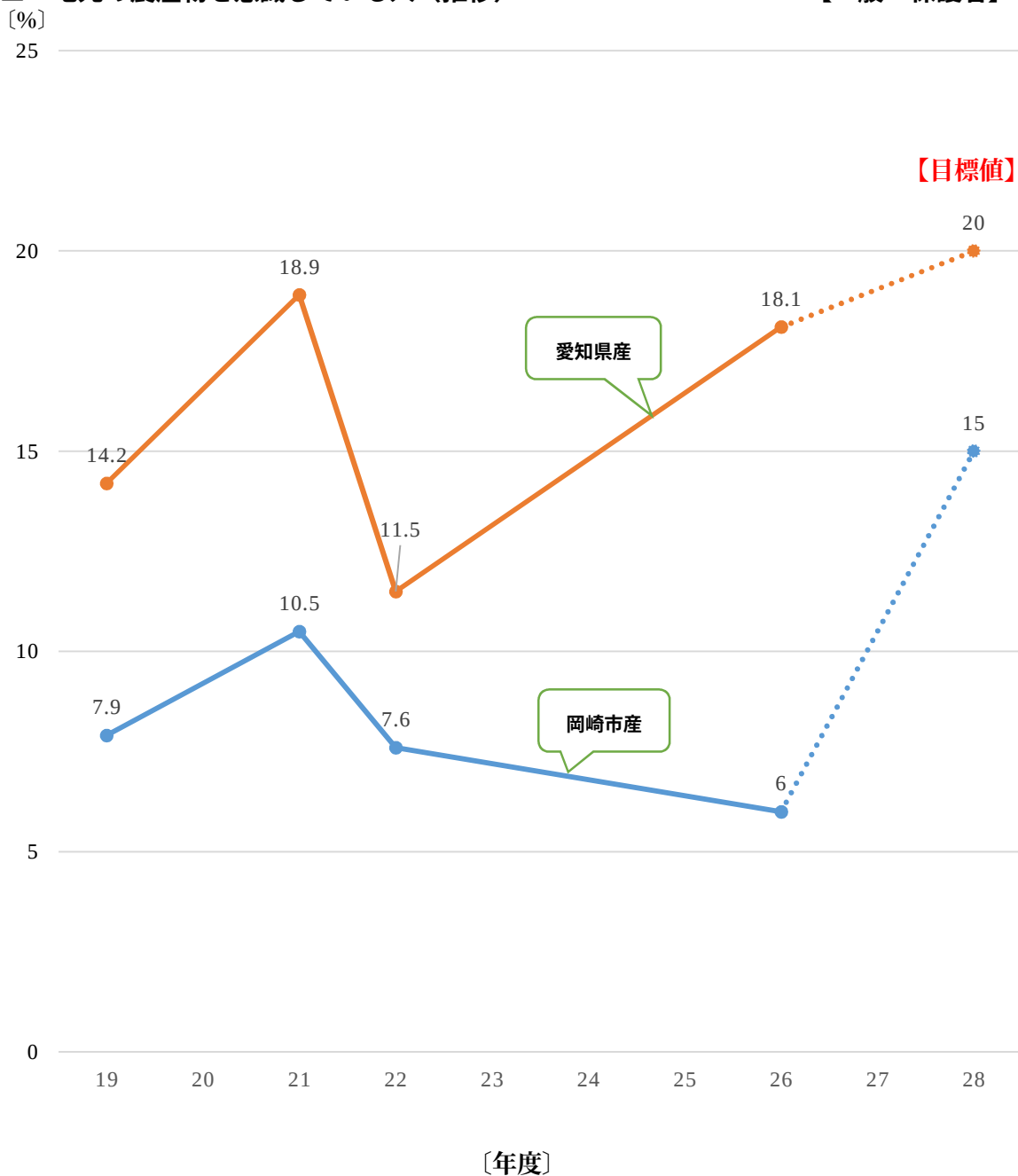


産地にこだわらない理由で最も多いのは、「産地ではなく価格を優先しているから」であり、価格優位で購入していることが分かります。特に家計を管理する保護者（＝女性が多い）でその傾向が強くみられます。

また、「日本で売っているものは安全だと思うから」「今まで何も問題がなかったから」が高いことから、現在の食の安全性に対し、一定の信頼感がうかがい知れます。

■ 地元の農産物を意識している人（推移）

【一般＋保護者】



8 食文化について

- 次の料理や菓子を知っていますか、ご存じの場合、それは岡崎の郷土料理（菓子）だと思いますか、また、過去に食べたことがありますか。

ア（認知度）、イ（岡崎の郷土料理と思う人）、ウ（食べたことがある人）の集計は次のとおりです。

●一般・保護者

単数回答

Nは、未記入のものを除いて集計しているため、次表のとおりとなります。

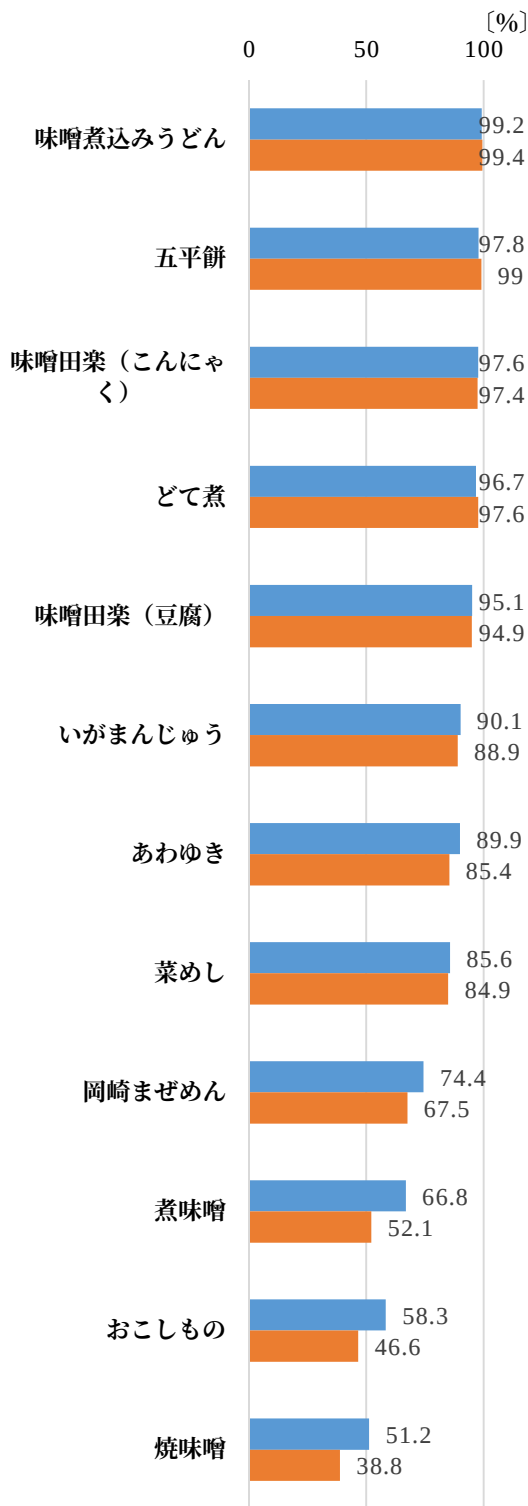
	一般（人）	保護者（人）
味噌煮込みうどん	830	6,998
味噌田楽（こんにゃく）	826	6,989
味噌田楽（豆腐）	819	6,969
煮味噌	808	6,935
焼味噌	816	6,926
どて煮	816	6,971
菜めし	818	6,966
岡崎まぜめん	816	6,955
五平餅	821	6,977
いがまんじゅう	820	6,974
おこしもの	820	6,969
あわゆき	818	6,973

●高校2年生・中学2年生・小学5年生・小学2年生・園児（4歳児）

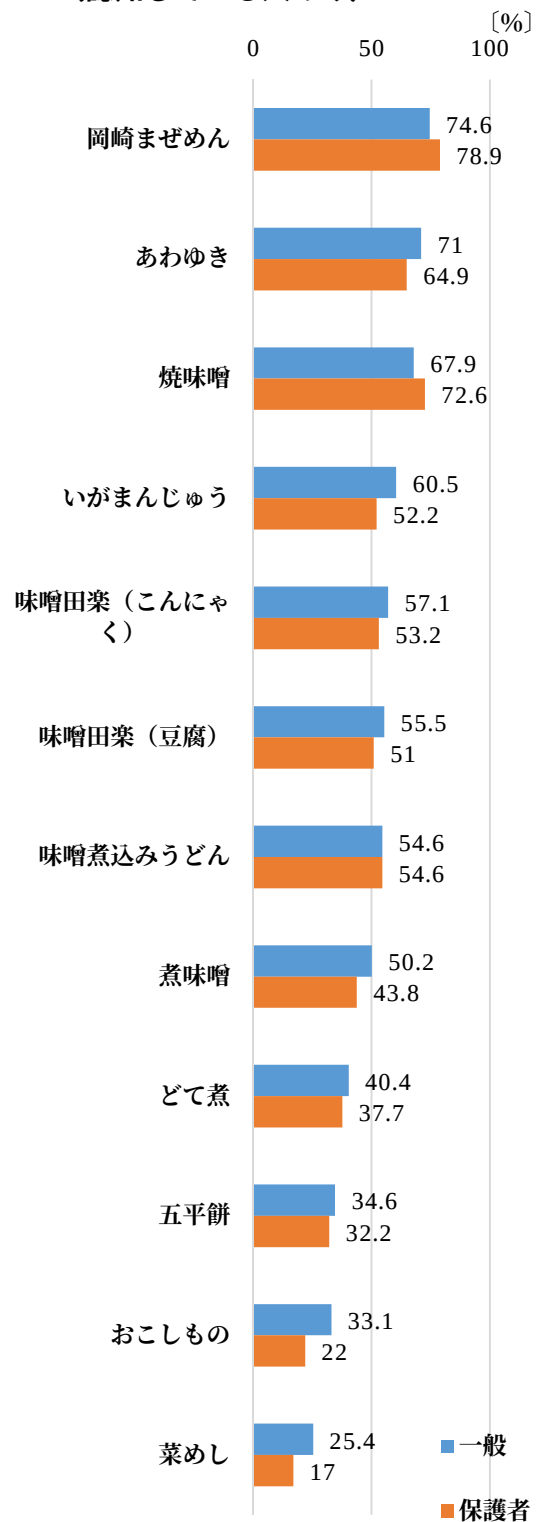
複数回答

	高校2年生	中学2年生	小学5年生	小学2年生	園児（4歳児）
N(人)	1,696	614	921	937	3,045
MT(%)	569.5	576.9	556.0	480.5	402.6
不明・無回答(%)	7.0	4.7	4.8	6.3	5.7

ア 認知度



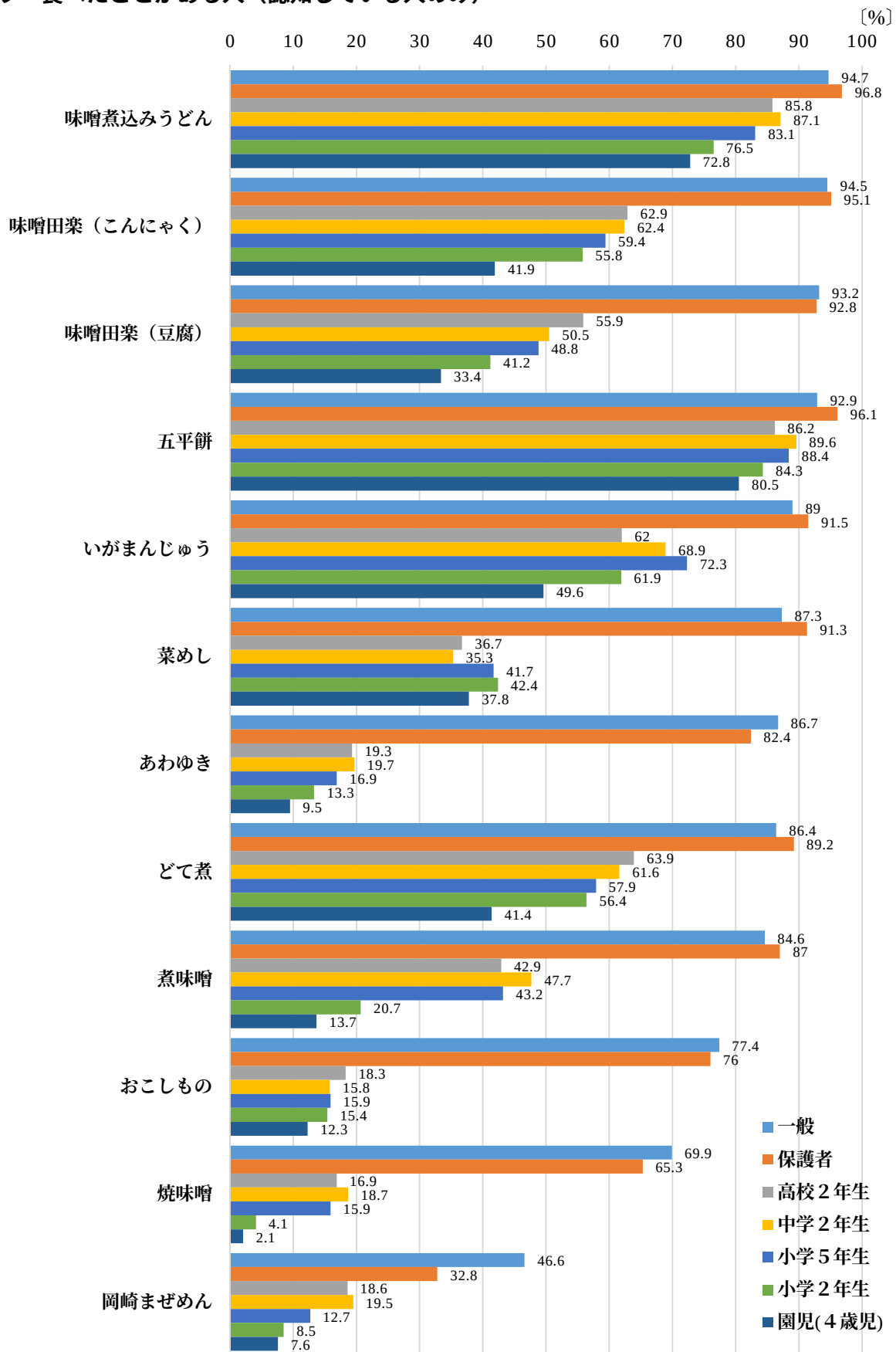
イ 岡崎の郷土料理と思う人 （認知している人のみ）



愛知県内で広くべられている味噌煮込みうどん、五平餅、味噌田楽（こんにゃく・豆腐）、どて煮はほとんどの人が知っています。

岡崎の郷土料理としての認識は、岡崎まぜめん、あわゆき、焼味噌、いがまんじゅう、味噌田楽が挙げられています。

ウ 食べたことがある人（認知している人のみ）



その他思い浮かぶ岡崎の郷土の食べ物（主なもの）

料理

味噌料理（赤だし、味噌カツ、おでん、豚汁）

へぼ飯

手羽先

ひつまぶし

釜揚げうどん

竹膳（竹の子）料理

鮎料理

あんかけパスタ

むらさき麦うどん

もろこしうどん

きしめん

小倉トースト

家康ラーメン

菓子

手風琴のしらべ

八丁味噌饅頭

鬼まんじゅう

八丁味噌かりんとう

第2次岡崎市食育推進計画 中間評価

平成27年3月

発行 岡崎市食育推進会議

事務局 岡崎市保健部（保健所）生活衛生課 食育推進班

岡崎市若宮町2丁目1番地1

岡崎げんき館2階

電話 0564-23-6962